

修猷館同窓会誌

2025 菁莪

令和7年 January/Seiga



表紙解説

パリ2024パラリンピック競技大会の視覚障がい者柔道男子73kg級で、平成30年卒の瀬戸勇次郎さんが、見事に金メダルを獲得した。世界のトップアスリートが集うオリンピック、パラリンピックでの修猷館卒業生の金メダルは、1936年のベルリンオリンピックで競泳（平泳ぎ）に出場した葉室鐵夫さん（昭和10年卒、故人）以来の快挙となった。

瀬戸さんが在籍した柔道部のOB・OGら5名でパリに同行し、表紙の写真を提供頂いた田中泰弘さん（平成12年卒）の応援記からは、熱い興奮が伝わってくる。

「せーの、勇次郎いくぞー！　せーの、勇次郎ファイター！」

令和6年9月6日、フランスの首都パリにあるシャン・ド・マルス・アリーナに声援が響き渡った。瀬戸勇次郎（平成30年卒）がパリ2024パラリンピック柔道決勝の暈に向かう中の光景だ。修猷魂と書かれた日章旗と共に、館旗の六光星もスタンドで翻り、弱視の勇次郎にもきっと修猷応援団の勇姿が届いていたと思う。

表彰台で涙を流す勇次郎が会場の大画面に映ると我々もこらえきれなくなり、皆で斉唱した君が代は一生の思い出となった。

（以上、修猷館柔道倶楽部幹事長・田中泰弘さん）

3年前、東京パラリンピックで銅メダルに終わり、悔しさをバネに頂点に挑み続けた瀬戸さんの思い、そして今、新たに見据えた目標。ぜひ、本誌「随想」の寄稿をご一読頂きたい。

文責 佐伯

修猷館同窓会誌

菁 莪



リンク先 URL

(<https://shuyukan-dosokai.com/seiga/>)

御挨拶	津田純嗣	1
東京修猷会会長就任挨拶	等健次	3
追悼		
水崎雄文先生を悼む	古賀健一	5
随想		
小中一貫校「志明館」を開校して	山口秀範	7
二刀流のその先へ	東 那	11
視覚障害者柔道を盛り上げるために	瀬戸勇次郎	15
投稿		
心の扉をあけるかぎ いのちの電話をご存じですか？		
修猷館の主(ぬし)	五斗美代子	18
中村研一画伯のフランス展覧会入選の絵	福地祐一	20
キャリアアセミナー	吉田朋春	21
七猷会キャリアアセミナー	安部祐子	23
資料館案内		
修猷館の彫刻家	小田部 太	26
部活OB会		
水泳部OB会(星泳会)・ラグビー部OB会		
野球部OB会・書道部OB会(墨猷会)		29
花盛り同窓会		
同窓会総会報告	古賀裕介	32
東京修猷会総会報告	竹野耕平	33
GOGO集友ー近畿修猷会総会報告ー	野口順平	35
支部だより		
東京修猷会	高木信明	37
近畿修猷会	野口順平	38
中京修猷会	阿部野 浩	38

長崎修猷会	宮下武彦	39
沖繩修猷会	立石修	40
中国四国修猷会	新藤直人	40
宮崎修猷会	河野浩	41
佐賀修猷会	光田靖	41
大分修猷会	駒井英基	41
鹿児島修猷会	布村知文	42
東北修猷会	三好宣彰	42
周年行事	工藤砂織	43
卒寿の学年同窓会	石井國義	47
卒業50周年記念同窓会のご報告	森部節夫	48
50年の時空を超えて	山口文男	50
清秋最可人	山本 周	52
Respect + Reset at 60	矢鳥啓子	54
学年一口連絡アンテナ		56
学校報告		63
同窓会の歩み		66
役員会・学年幹事会報告		67
令和5年度 同窓会収支決算書		70
令和6年度 同窓会収支予算書		71
令和5年度 同窓会会費入金状況		72
修猷館同窓会会則		74
修猷館同窓会 個人情報保護方針		75
お知らせ		76
『修猷館同窓会名簿』発行のご案内	松本一範	77
同窓会事務局だより		78
令和5年度 一般財団法人修猷協会活動報告		78
修猷館同窓会役員名簿・各支部会長名簿		78

御挨拶



同窓会会長

津田 純嗣

(昭和44年卒)

皆さん、こんにちは。

2024年は色々なことが起こりました。元日に能登で震災、2日には羽田での航空機事故、3日は私が住む北九州では商店街の大火が発生し、災害尽くして一年が始まりました。特に能登では水害にも見舞われることとなり、早期の復旧を祈念します。

喉元を過ぎて忘れてしまいますが、灼熱の夏でした。地球温暖化は猛威を振るい、太宰府が日本一暑い街の称号を取っていました。

スポーツでは明るい話題が目白押しでした。ドジャースの大谷が大活躍し3度目のMVPを獲得しました。相撲では尊富士が110年ぶりに新入幕の優勝を飾れば、大の里は昭和以降最速での大関昇進を果たしました。

パリでのオリンピック・パラリンピックでは瀬戸勇次郎君(平成30年卒)の柔道73kg級での金メダル獲得の快挙がありました。

日本一は横浜に譲ったものの福岡ソフトバンクホークスの4年ぶりのリーグ優勝もありました。経済ではバブル期以来34年ぶりの株高、17年ぶりの利上げでマイナス金利解消、それでも30年ぶりの円安となりました。その円安に押されての物価高も続く中で、33年ぶりに5%超えの質上げが実現し、経済の好循環の予兆も出てきました。2025年も適度なインフレと質上げで日本経済の活性化が進むことを期待しましょう。

国内政治では政治資金問題で逮捕者が出ると、岸田総理退陣・石破総理誕生・衆院選挙で与党の過半数割れと続き、国の政策決定のプロセスが大きく変わる事態となりました。

海外では各地で不安定な政治状況となっています。米国ではトランプ大統領が再び咲きました。1980年代のレーガン大統領のスローガン「Make America Great Again」でしたが、この時は米国の製造業の復活のためとして、日本が標的となり、輸出の自主規制、円の切上げなどを強要されました。政治的には徹底した反共政策で、当時はまだ圧倒的な大国であった米国が裏に表に立ち回り、東西冷戦の終了というエポックとなりました。フランシス・フクヤマは「歴史の終わり」で民主主義と自由主義が最終的な勝利を収めたと言いました。が、どうも違ったようです。

米国はその極端な功利主義を（偽善も含む）正義感でバランスを取って来ました。私が暮らしていた90年代の米国では、「Fair（公正）」の言葉がよく米国人との会話で出て来ました。Fair Play, Fair Deal, Fair Priceなど、¹⁾「利害関係者も、²⁾³⁾々々には社会も納得できる正しさ」といった感じでした。自由主義・個人主義の国で本音と建前のバランスを保つために持つべき感覚として、行き渡っていません。これがトランプ大統領のGood Dealに置き換わってしまうとしたら、そのバランスを失い、個人主義と自国第一主義への傾注で社会や世界の秩序に混乱を与えることが脅威です。

ロシアでは大ロシア帝国、中国でも大明帝国への回帰への思いが現状を変える動きとなり、周辺国を巻き込んだでの戦争・紛争を引き起こしています。しかも、国家の意思として独裁制のもと、国家思想として益々、強固になり続けている感があります。

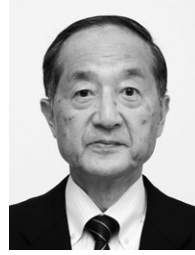
中東では宗教という人間の根本問題での対立です。イスラエルと周辺のイスラム教の民族との争いは、もつれてしまった糸のようです。イスラム教徒の間でも宗派の違いで思想・政治・軍事そして生活の全ての場面での争いとなって、収束の目処が見えません。

自由主義・民主主義が世界を覆い尽くすと私も信じていた20年前との状況の違いには驚愕しています。自由主義・民主主義と言われる国家群も混乱し多様化しているように見えます。

では、日本の自由主義・民主主義をこれからも支えて行くものかと考えると、それは日本の歴史に根ざした文化であると思います。儒教の五常の仁義礼智信は中国よりも日本で昇華されて日常に入り込んでいますし、「弱い子を虐めず、大きな子からは逃げない」勇氣は勇猛果敢なFair Playの精神であり、「三方良し」はFair Dealそのものです。世界が共有できる美德です。

これからの日本を背負って貰う人を育む場として、日本の伝統が息づく修猷館は相応しいと思えます。ノブレス・オブリージュの気概とも共通する、「武士の掟」の心で日本を治め、世界を相手にする修猷館生の活躍を期待するものです。

東京修猷会会長就任挨拶



等 健 次

(昭和45年卒)

—自己紹介—

昨年、伊藤哲朗前会長の後を継ぎ、東京修猷会会長及び修猷館同窓会副会長を務めることになりました昭和45年卒の等健次です。自転車で西新に通った3年、修猷館同窓会の先駆けである浩浩居で2年、東京修猷会では学年幹事、副幹事長、副会長と11年修猷館とかかわってきました。人生を振り返ると良き恩師、友人、諸先輩、後輩に恵まれてきました。この恩に少しでも報いるべく歴史と伝統ある東京修猷会会長及び修猷館同窓会副会長の重責を果たしていきたいと思っております。

—東京修猷会の活動—

東京修猷会も他同窓会と同じく新型コロナウイルスに翻弄されておりましたが、ようやく昨年5年ぶりに懇親会を含めた総会をホテルで開催することができました。宴会場は広く、皆さんが同期で集まった後、テーブルを離れて部活などの先輩、後輩と交流されているのを見て感慨深いものがありました。参加者数は新型コロナウイルス以前の700人には及びませんが、441人の参加があり、同窓会の原点に戻れた気がしました。振り返れば、5年前、新型コ

ロナ感染拡大により、総会は中止。その後オンライン配信で再開、翌年は懇親会なし+オンライン配信。一昨年はレストラン。そして昨年ようやくホテルで人数制限なしの完全開催にたどり着きました。新型コロナウイルス感染拡大による人々の行動制限、ホテル会場不足、会場費値上げという課題がある中で、六星会(平成6年卒)、七猷会(平成7年卒)、平八会(平成8年卒)、九猷会(平成9年卒)の幹事学年と執行部の皆さんがよく働いてくれました。伝統を継承しながら状況変化に臨機応変に対応していく、まさに修猷の精神を発揮されたと思います。毎年参加者には所属部活の記載をお願いしてきましたのですが、昨年は、ラグビー、剣道、美術など20に及ぶ運動部・文化部の参加者があり、年一回の会が同期の集まりだけでなく年代を超えた部活の集まりとしても機能しているように思います。今年の総会は6月13日(金)ハイアットトリージェンシー東京。幹事学年天猷会(平成10年卒)の皆さんには準備段階から熱気を感じています。

東京修猷会には昭和27年頃から続いている、修猷卒業生による館友のための講演会「二木会」があります。非常にユニークな活動で、他校同窓会でも聞いたことがありません。学士会館で毎月第二木曜日(19時)に開催され、昨年11月で687回になりました。直近では「猷を修むと名に負うからには」日本漢文学から見た修猷館(合山林太郎さん平成8年卒)、「長生き時代の悩みに寄り添う雑誌『婦人公論』に見る人生後半を楽に、心豊かに生きるヒント」(三浦愛佳さん平成3年卒)、「修猷での教えが日本医師会長の道を作った」日本医療の素晴らしさと今後(横倉義武さん昭和38年卒)など幹事学年や執行部の皆さんが関心のある

分野で活躍する先輩・後輩に講演を依頼します。政治、行政、経済、医療、スポーツなど様々な話を、その分野のプロフェッショナルから直に聴くことができます。(昨年の講演リストは「支部だより」を、詳しい講演内容は東京修猷会HPでご覧ください。) 新型コロナ感染で一時期中止しましたが、その時期に導入したオンライン配信システムが軌道にのり、今では半数の方々がオンラインで参加。福岡から、ロンドン、ドバイからも参加者がいます。講演後には懇親会があります。毎回30〜40人が集まり、講演者と直に話せるほか、年代を超えた交流を楽しんでいます。もともと多くの方々、とくに20・30歳代の皆さんに、視聴・参加してほしいと思います。学生会館は全館改修のため、今年1月からはホテルグランドヒル市ヶ谷に変わりました。

9月には「サロンド・ド・修猷」という家族や友人で参加できる企画があります。一昨年は江崎文武さん(平成23年卒)達によるジャズの演奏。昨年は巨瀬励起さん(平成8年卒)、吉田明未さん(平成21年卒)によるオペラハイライトと団伊玖磨(祖父団琢磨は修猷館卒)作曲の合唱組曲「筑後川」より「河口」を38人で合唱。いずれも修猷卒業生の生演奏です。館友が活躍する場の広がりを感じます。4月と9月には二木会ゴルフ、12月には忘年会があり、多くの方々が参加されました。

―今後の抱負―

幹事学年は毎年変わります。会社や家庭で忙しいにもかかわらず東京修猷会の活動を支えています。多感な青春時代を修猷館でともに過ごし、自分たちで運動会、文化祭をやり遂げてきた記憶

と経験が、再び集まった時の原動力になっているのでしょう。福岡を離れ東京で暮らす故に絆は殊更強くなるようです。そういう幹事学年が自由に企画・運営ができるよう環境を整えていきたいと思っています。

昨年のパリパラリンピックで瀬戸勇次郎さん(平成30年卒)が柔道73kg級で金メダルを獲得し大いに盛り上がりました。現役生も柔道、野球、ラグビー、陸上、山岳に加え、書道、ディベートなど文化部も活躍しています。昨年総会で中神智文館長からコーラス部が全国高等学校総合文化祭に福岡県代表として出演すると聞き、8月、応援のため岐阜県可児市へ行きました。元石隆英先生指揮の下アカペラのきれいなハーモニーと豊かな曲想に感動し、現役生の若さとエネルギーを感じました。また可児市在住の先輩が修猷小旗をもつて来られたり、合唱部先輩に57年振りに会うことができました。現役の応援には行くものだと改めて思った次第です。11月には研修旅行2年生と卒業生との交流がありました。このように同期の交流、部活動の年代を超えた交流、そして現役と卒業生との交流をもっと応援できるような同窓会にしたいと思っています。

今後東京修猷会、修猷館同窓会が益々発展していきますように、加藤純一(昭和51年卒)、鈴木俊彦(昭和53年卒)両副会長をはじめ、各役員、執行部ならびに学年幹事の皆さんとともに精一杯務めてまいりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

追悼

水崎雄文先生を悼む

古賀健一

(昭和35年卒)

令和五年（二〇二三年）修猷館教諭、同窓会事務局局長であった水崎雄文先生が逝去されました。ご高齢だったとはいえ、まだまだお元気でおられると思っていたのに本当に残念です。

この訃報は本誌「菁莪」の編集長だった森下さんからもたらされたものですが、先生とは同窓会で私と同じ常任幹事として長く一緒にいたので、よく存じ上げている者として残念至極で、心よりご冥福をお祈りします。

先生は昭和三〇年本校を卒業され、九州大学文学部、さらに同大学院文学研究科をご卒業。昭和三九年に福岡県の教諭に採用され、初の赴任地として名門小倉高等学校に赴任、昭和四五年に福岡県立福岡高校に異動のあと昭和五一年四月に母校である修猷館高等学校に着任されました。

修猷館の教諭としては平成五年三月まで一七年の長きに亘り勤務されました。母校の生徒たちを教えるという教諭冥利に尽きた人生ではなかったかと推測します。新入生の授業では修猷館の歴史、校章、制帽、館歌、館旗などの由来をも熱心に教え

ておられたそうです。

昭和三〇年卒業というと、同級生には元副総理の山崎拓氏、市議会議長などを歴任された石村一明氏、九電副社長のうち福岡アジア都市研究所会長、アクロス福岡館長などを歴任された石川敬一氏、同窓会名簿委員長の平田豊氏など錚々たる先輩方がおられます。

教諭としての激務の傍ら、同窓会の事務局長として昭和五五年から平成元年まで、「菁莪」の編集委員として平成二一年まで、同窓会の常任幹事を平成一一年までお引き受けいただき長い間お世話になりました。心より御礼申し上げます。

同窓会は学校との緊密な連絡が必要です。学校での行事や施設の充実などのため経済的な援助を何度も要請されました。そこで学校から同窓会へ出向？ という形で先生が常任幹事会に出席されていました。以前には卒業生ではなかった先生もかなりおられました。水崎先生はその大役を何年も果たされました。

援助の一例は、選抜された生徒が主として米国などに海外派遣旅行へ行く際の旅費補助、県では許可され



平成22年度同窓会 すごくろく会学年企画で

ていないグラウンドへの人工芝敷設工事費用の補助などです。

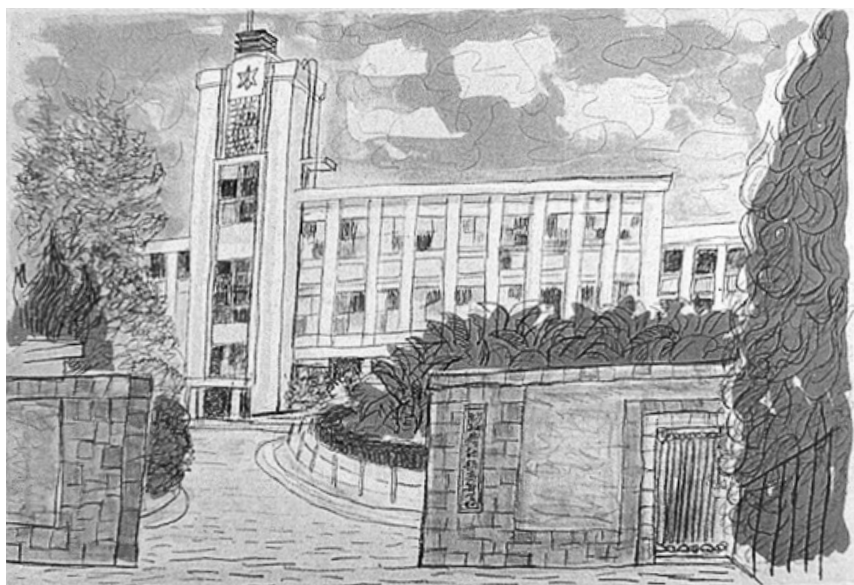
また修猷館の創立二百年などの創立記念行事には同窓会として式典を挙行し記念誌を発行、記念講演、さらに記念展を西新岩田屋で開催するなど他校ではほとんど考えられないような大きな行事を行いました。その際、水崎先生は事務局として、「修猷館二百年誌」の編者として加わり、また常任幹事として大活躍をされてきました。さらに著書に、明治二四年に起こった軍への投石事件を扱った「修猷館投石事件」(花乱社)があります。

私が一昨年「菁莪」にその「菁莪」の歴史について駄文を投稿した際、内容に記憶違いや間違いがあつてはまずいと、念のために水崎先生に原稿を送って見ていただいたところ、ご親切にも誤字・脱字まで推敲していただいたことを思い出しました。

先生の母校への愛は並々ならぬものがあつたと思わざるを得ません。そんなに目立つような姿勢は見せられず、それでいていつも柔らかに真剣に進言されたことを覚えています。水崎先生は「赤外線ストープ」のような方でした、とは本誌の新編集長で教え子でもあつた佐伯君の感想です。温かみがにじみ出るような人柄で、私も思わず上手い表現だと共感しました。

水崎先生、これからも修猷館、同窓会を温かく見守ってください。

(先生の履歴などについては、学校事務局、同窓会事務局に情報をいただきました。厚く御礼申し上げます。)



小中一貫校「志明館」を開校して



山 口 秀 範

(昭和42年卒)

■学校作りの動機

十六年に及ぶ長い準備期間を経て、令和六年四月に小中一貫校「志明館」を開校しました。所在地は小倉北区中井口です。まずは十年前の発起人会趣意書冒頭をご覧ください。

私たちは、次の三点が現代日本を覆っていることに深刻な憂慮を抱いています。

- ① 自己肯定意識（自分の帰属する家族・地域・国への誇り）の希薄さ
- ② 公のために尽くす使命感（世のため人のためという志）の欠如
- ③ 困難・逆境に立ち向かう気魄・勇氣（心身の逞しさ）を培う機会の少なさ

少子高齢化が加速する状況下、将来に向けて日本が世界の真のリーダーとなるか否かは、今後の国民教育の充実如何にかかっており、子供の頃から強靱な心身と高い志を育成する教育機関が今こそ求められています。

これが全く新しい小中学校を作るといふ素志の表明です。かつてゼネコン勤務時に私が訪れた国々——ナイジェリア・ドミニカ・ベトナム等々——の子供たちは、どんなに貧しくとも自分の生まれた環境を肯定しつつ楽天的に暮らしていました。対照的に今から三十年前に、海外勤務十四年を終えて久しぶりに目にした祖国日本の子供たちは実につまらなさそうな様子で日々登校していたのです。当時の青少年の国際比較を見ても「自分に自信がなく、この世に生きる意味を見出せない」日本の若者の割合は世界の中で突出しており、国の将来を悲観させるものばかりでした。

そうした自己肯定感の欠如は、栄光と愛着に満ちた父祖の歴史をありのままに教えず、いわゆる自虐史観が検定教科書を覆ってしまったことにも遠因があるでしょう。この世に生まれた一人一人はかけがえのない役割を担っており、その開花のため如何に努力するかと自問しつつ志を磨く機会の無さが、子供たちの元気の発露を妨げて来たようです。

爾来、日本の子供たちの目を再び輝かせたいと教育再生を目標として、偉人伝を大人向け・子供向けに語り聞かせる「株式会社寺子屋モデル」を立ち上げ、「偉人の生き方をお手本にしよ

う」と提唱して来ました。やがて博多学園の八尋太郎理事長と出会い意気投合した時から、小学校作りが具体化し始めました。「逆境」の克服は多くの偉人たちの成長に欠かせない要素でしたが、現代の子供たちに逆境を与えることは至難の業と化しています。すべては大人がお膳立てをして躰かせない、困らせないように仕向ける風潮の中で、せめて学校では「なるべく教えずに自ら考えさせる」、「失敗を経験させ自力で迷路の出口を見つける」習慣を身につけさせたいものです。そんな思いが結果として「志明館」が生まれました。

■いま求められるのは、発憤力、人間力

志明館では、子供たちが学校の制度に合わせるのではなく、学校が子供たちの成長に合わせる新しい教育システムを導入しました。具体的には、小中の九年間を「二・三・三・一」の四期に区切ります。小学校一、二年生の第一期は、何事も抵抗なく吸収する幼児期間の延長で、規範意識や躰に始まり、AI搭載アプリも活用して漢字や計算などの反復学習を進めると共に、自然体験・文化体験の機会へと誘導し、一方では校内の畑での野菜作りや日常的な外遊びを通して子供たちの感性を育みます。最初の二年間で基礎を作った後、小学校三、四、五年生という好奇心・自立心の強くなる第二期には引き続き学力の土台をつくる授業を行いながら、自分の興味関心のある分野について自発的に学ぶカリキュラムを用意しています。そして小学六年生から中学二年生の第三期は、各人の深めたい分野を大学や企

業に通って現場体験を積む学習や、思考力・発憤力を習慣化するためにディスカッション中心の授業、さらには日本だけでなく世界にも視野を広げるために、海外姉妹校とのオンライン授業を進め、一定期間の留学も奨励します。

もちろん、全学年を通じて美しい日本語の習得は必須であり、先人の生き方に学び、茶道・武道・書道などの伝統文化に触れ、日本人としての礼儀作法、穏やかで芯の強い心を養う授業、機会も充実させます。

最後の一年間（第四期）には、義務教育に必要なカリキュラムは既にすべて終えているので、主としてプロジェクト学習に取り組み、各人が将来に向けた研究や進路準備活動にしっかりと専念できるようにします。全体を通して教科担任制を導入し、それぞれの教科の指導に秀でた教員が授業を行って子供たちの興味関心を喚起します。さらに適切なITアプリを駆使して生徒一人ひとりの理解度、得意・不得意分野を可視化して個別指導に繋げる「個別最適化学習」を実現させ、全員がしっかりと学力定着できるよう導きます。

志明館で何より大事にしているのは、たとえ失敗や困難に直面しても、自ら課題を見つけ、自ら考え、探求していく「発憤力」(*)を養うことと、人への思いやりの心、勇氣ある行動力、世のため人のためという強い志を持った「人間力」溢れる人財を育むことです。

どんなに時代が変わりテクノロジージが進化しても、発憤力と人間力が身につければ進むべき道を力強く切り拓いていけ

るでしょう。そういう人材が増えていけば、きつと日本の未来も明るいものになっていくはずです。

(*) 発憤は『論語』の「憤せざれば啓せず、排せざれば発せず」に因んで名づけた。自ら学ぶ意欲を旺盛に發揮せぬ弟子へは、師は手を差しのべないとの意味。

■理念と校訓・校歌

本校の理念を「誇りと志を培い、日本で、世界で羽ばたく人材を輩出する」と定め、その実行を促すために「志明館師心得」、「志明館友心得」、「志明館親心得」を用意しました。

志明館の教師は「自らの生きる目標を高く掲げて人間力を磨きつつ、同志との切磋琢磨を怠らざるべし」との自覚を持ち、「館友」(在校生のみならず卒業後もこう呼ぶ)それぞれの特質を見抜き可能性を引き出す助言者となり、教え子たちと一生のつき合いを楽しむことを目指します。

一方「館友」は「自国の歴史・伝統を正しく学び、美しき母国語を語る闊達な児童たれ」「自己の意思を臆せず表明し、相手の意見にも耳を傾ける情操豊かな生徒たれ」「健全な身体に鍛え上げ、万物と共生しつつ、公に向かう使命感溢れる青年たれ」と次第に成長し「卓越した学力・識見・豊かな感性を基盤とし、異文化への理解と敬意を湛え、日本の心を育んだ国際人たれ」と期待されています。(生徒相互の切磋琢磨の機会として、希望者には寮生活を提供しています)

そして親には「子は親の鏡」と心得て自らが「ご先祖様を敬い、

大自然に生かされていることに感謝して過ごす」ことと「発した言葉は人の心を左右するので、相手への敬意を込めた言葉遣いに努める」ように促し、「挨拶、返事、履き物揃え、手伝い」を習慣化して素直な子に育てることを家庭の役割と位置付けました。

続いて、歴史と伝統を踏まえた上で、これからの日本人が身に付けるべき資質は何か、関係者の徹底検討から「和誠礼勇」が校訓と決まりました。四つの徳目に託した思いは以下の通りです。

和：自立心旺盛にして周囲と睦び相和する心

誠：恥を知る矜持と己も他をも欺かぬ相互信頼

礼：万物に感謝し謙虚・簡素に振舞う心身の構え

勇：邪に對峙し逆境に怯まぬ猛き気概

かくして「校歌」一々四番のテーマは自ずと決まり、その徳目を実践した偉人に肖らむとの詞に、公募を経て曲が整えられました。

志明館校歌 作詞 山口秀範(館長)

一曲 武澤陽介(音楽教師)

一 睦むこと 容易からざる 人の世に

和の憲法立てし 太子を仰ぐ

志明館友しなやかに矢れ

二 逆境を誠一筋乗り越えし

維新の先駆 松陰慕ふ

志明館友小倉に集へり

三 喫むお茶を道へと高め礼節の

心伝へし利休に学ぶ

志明館友 発憤を競へ

四 国難の蒙古襲来、迎へ討ち

勇を奮ひし 武士の末

志明館友 未来を担はむ

■忘れてはならない人々

前述のように長い海外勤務を終えて東京に戻り、日々通学する子供たちの、世界一つまらなさそうな表情に出会った今から丁度三十年前が、

教育再生を目ざす出発点です。しかし元をたどれば、高校時代に「日本人として生きる」道へ導いてくださった小柳陽太郎先生の教えが全ての始まりでした。高校三年の約九ヶ月間、先生のお宅で開かれる勉強会へ同級生三十名ほどと毎週通い、古今の偉人たちが遺した文章についてのご講義に胸を高鳴らせました。

共に学んだ縁で、伊藤哲朗君（元警視総監）や石村善悟君（萬盛堂前社長・故人）、古川忠君（前福岡県議）ほか同志と呼べる友人たちと半世紀超のつき合いを深めたことは実に幸運でした。特に寺子屋モデルの立ち上げから志明館開校まで、親身に協力を惜しまぬ友情のお陰で今日があります。加えて出光芳秀さん（元新出光社長・昭和31年卒）、橋田紘一さん（元九電



開校式にお揃いの紋付き袴で臨む生徒たち

工社長・昭和36年卒）、津田純嗣さん（元安川電機社長・昭和44年卒）をはじめ沢山の館友方からの応援は、本事業の大きな支えとなっております。

■これから

開校から半年、一年生も二年生も着実に成長しています。まだまだ揺籃期にあり構想通りの学風が定着するかこれからが試金石です。①教師の実力増進、②「チーム志明館」の士気を上げる、③保護者の啓蒙、④募集活動、⑤学校施設・教育充実・奨学金整備等のための寄付集めと、取り組むべき課題は目白押しです。

それと並行して、第二第三の志明館を全国各地に飛び火させて行く活動も並行して行きます。その動きを広げることが日本の教育再生の本丸と肝に銘じていきます。どうぞご賛同とご支援をお願いします。

志明館小学校
SNS公式アカウント

Instagram



SHIMEIKAN.2024

ホームページ



小中一貫校 志明館 SHIMEIKAN

093-383-0514 shimeikan@hakata.ed.jp

https://shimeikan.hakata.ed.jp 北九州市小倉北区中井4丁目1号

二刀流のその先へ

ラグビーと看護で切り開く私の挑戦



東 茉 那

(平成28年生)

プロローグ

現在、2024年9月9日午前8時。私は韓国・仁川空港の搭乗口付近に座っています。9月7日、8日に行われたパリ五輪後の男子7人制ラグビー日本代表新チームによる初の国際大会であるアジアシリーズ韓国大会の帰りの飛行機を待っているところです。結果は3位。新しいチームでメダルを獲得した達成感と、3位という結果に満足できない悔しさが入り混じります。少しデータ分析作業も落ち着いてきたので、こうして筆を執ることにしました。これから私のこれまでの経験を振り返り、目指す未来について書き綴ってみたいと思います。

高校時代・ラグビーと紡いだ青春の日々

ラグビーと出会ったのは、「世界に羽ばたく選手を育てる」ことを目的としている福岡県のタレント発掘事業でした。小さな頃からスポーツが好きで、日本代表になってオリンピックに

出場するためにラグビーを選択し、中学から本格的に始めました。

修猷館に進学し、私は史上初のラグビー部の女子部員として入部しました。3年間、女子一人で男子の中にまじり、一緒に汗を流しました。平日は男子部員と練習し、休日は女子のクラブチームで練習や大会に出るといったラグビー漬けの毎日を送っていました。男子との体格差、体力差、技術力の差も大きく、悔しくて涙を流すことも多々ありました。しかし、その分与えられるチャンスの大きさにも気づいていました。女子チームで練習をしていると、ある日を境にボールや相手がスロームーシヨンのように見えるようになったのです。普段からレベルの高い男子の中でやっていた恩恵でした。

当時は女子ラグビー選手が今ほど当たり前ではなく、周囲には驚かれることがほとんどでした。そんな視線にさらされながらも、自分は自分の道を歩んでいくのだと、まさに「パイオニア」として切り開いていきました。その意識は常に持ち続けており、今までの人生選択に大きな影響を及ぼしている一つです。

ラグビー漬けの毎日でしたが、行事にも全力で参加していました。特に印象に残っているのは、高2の時に行った東北研修で、東日本大震災の被災地を訪れたことです。震災から立ち直ろうとするその地には、現地の方々の生の声があふれていて、彼らの言葉が自分の心に強烈に響きました。「当たり前だった日常が、瞬く間に壊れてしまった。」それは震災を経験された方の言葉でした。家族と食事を囲むこと、夜の星空を眺めるこ

と、友達と学校に通うこと…。私たちが当たり前と思っていたすべてが一瞬で変わってしまう現実を、目の前で知らされたのです。立ち上がる彼らの強さに感銘を受けるとともに、「今ある人生を懸命に生きること」の大切さを痛感しました。「やりたいことは、今やるしかない」と感じました。自分の人生は自分の手でしっかりと握り、全力で駆け抜けていかなければならないと決意したのです。「いつかできる」と先送りになっていたことに、一歩踏み出す勇気をくれました。この東北研修は、私の人生観を大きく変える出来事の一つになりました。

スポーツに力を入れてきた私にとつて、大学は体育学部に進み、スポーツを通じて社会に貢献したいと思っていたため、進学先に迷いはありませんでした。しかし、高3の夏、私は前十字靭帯断裂という大きな膝の怪我をしてしまいました。その1年前にも同じような怪我をしましたが、懸命にリハビリを行い、無事に復帰できたと思った矢先の出来事でした。この怪我が原因で、実技試験が必要な体育学部への進学が不可能になりました。そのときの絶望感は今でも鮮明に覚えています。スポーツが人生の中心だったため、この挫折は何よりも辛いものでした。しかし、その経験が逆に私に新しい道を見つけさせざるきつかけとなりました。

大学時代…看護学とラグビー分析の両立

怪我をきつかけに、私は進学先を急遽変更し、筑波大学医学群看護学類に進学することになりました。同時に、度重なる怪

我により、オリンピックを目指せる体に戻すのは難しいと感じたため、選手として引退することを決意しました。最初はオリンピック選手になるという夢を諦めることに本当にこのままでいいのかと葛藤する日々が続きました。しかし、ラグビーの魅力に取り憑かれていた私は、筑波大学体育会ラグビー部でアナリストという役割に出会いました。アナリストとは、チームが勝つために映像やデータを用いてコーチや選手をサポートする役割です。今まで選手として表舞台に立っていたため、裏でチームをサポートすることに少し抵抗がありました。やりながら次第に興味を持ち、やりがいを感じるようになりました。そして、大学3年生のとき、縁あって7人制ラグビー日本代表チームをサポートする機会を得ました。この貴重な経験は私の人生における大きな転機となりました。授業や看護実習に励みながら、ラグビー部のアナリストとして選手を支える、私は限られた時間をフル活用し、大学生活はとても充実した日々となりました。

東京オリンピック…アナリストとしての挑戦

大学卒業時に私は看護師・保健師免許を取得しましたが、一生に一度になるであろう、自国開催の東京オリンピックに関わりたいと思い、看護師として働くよりもアナリストとしてのキャリアを優先することにしました。小さい頃からオリンピックに出場したいとずっと思っていたため、7人制ラグビー日本代表チームのアナリストとしてオリンピックに関わることは、

違う形ではあります。幼い頃からの夢を叶えるものとなりまして。しかし、東京オリンピックへの道は決して簡単なものではありませんでした。コロナ禍という前例のない状況で、多くの人々がスポーツの存在意義や価値に疑問を抱き、スポーツへの批判も少なくありませんでした。そのような中で、自分がどのようにスポーツに関わり、アスリートを支えるべきかについて深く考えさせられました。隔離生活を余儀なくされ、日本開催でありながら無観客というホーム感のない大会は、大きなプレッシャーでした。それでも、選手たちの一生懸命な姿に触れるたびに、自分の役割に責任を持ち、チームをサポートするために全力を尽くしました。結果的に、日本代表は期待通りの結果を残すことはできませんでした。しかし、競技後に見せた選手たちの清々しい顔を見て、その瞬間まで共に戦い抜いたことに深く感動し、これからは彼らを支え続けたいという気持ちが一層強くなりました。

パリオリンピック・アナリストと看護師の二刀流

東京五輪を終えた後、縁があつて7人制ラグビー日本代表チームドクターの病院で、私は看護師と日本代表のアナリストの二刀流生活を始めました。私が聞いた限りでは、このような働き方をしている人はほかにいないため、自分で道を切り開く「パイオニア」精神が生かされていると感じています。病院で手術室や外来を担当しながら、代表合宿や大会にも帯同しています。具体的には、1〜2週間の合宿や大会に参加し、その後

は看護師として1〜2週間病院勤務をする、ということを繰り返しています。二つの異なる役割を交互にこなすこの生活は決して楽ではありませんが、アスリートを支えながら医療に携わるといふ夢の実現が日々の励みとなっていました。

2024年7月、パリ五輪のため、私はパリへ行きました。これまで培ってきた分析力を駆使してアナリストとして選手たちをサポートしましたが、結果としては5戦5敗、最下位という悔しい結果に終わりました。それでも、終わった後に見た全力を尽くした選手たちの姿に、私の胸はいっぱいになり、涙がこぼれました。

影響を受けた人物とその言葉

パリで私はある先駆者を思い出していました。それはココ・シャネルです。ココ・シャネルはファッションブランド「シャネル」の創始者であり、第一次世界大戦前の男性社会において新しい女性像を打ち立て、努力の末に世界的なファッションデザイナーとなった人物です。その生き様は、常に変わり続ける世の中に対して、自分もまた挑戦し続け、前に進み続けることで新しい価値を生み出していることを教えてくれます。彼女の言葉「Beauty begins the moment you decide to be yourself. (あなたがあなたらしくいることを決めた瞬間に、美しさは始まる。)」は、私にとって人生の指針であり、いつも心の中にあります。自分を幸せにできるのは他人ではなく自分自身です。だからこそ、心地よく、幸せに、自分らしく羽を広げ

て自由に飛ぶことで輝き、美しくなることができるのです。このココの言葉は、新しい人生のフェーズへ進む私の背中をそつと押ししてくれるものです。偶然にも、私はココがファッションリーダーとして築き上げてきたこのパリに足を踏み入れました。彼女がここでインスピレーションを得て、時代を超える世界を築き上げたことを思うと、胸に熱いものがこみ上げてきます。

新たな挑戦・オーストラリアへの旅立ち

高校時代に身につけた「バイオニア」精神や「やりたいことは今やるしかない」という考え方は、私がこれまで積み上げてきたものを進化させ、次の新しい挑戦へと向かう決断力をも育ててくれました。

2024年12月まで、私は日本代表アナリストと看護師の両立を続けます。しかし、2025年1月からは新たな挑戦が待っています。それは、オーストラリアに渡り、アシスタントナースとして働くことです。もちろん、これまでの二刀流に不満があったわけではなく、むしろ今まで築き上げてきたものが失われる不安は大きいです。それでも、もつと英語や国際医療について学びたい、自分の視野を広げたい、そんな想いからアシスタントナースとして新たな現場に飛び込み、日本では経験できないことを重ねていきたいと考えています。新天地での楽しみと不安が半々ですが、帰国後に自分がどんな成長を遂げているのかを想像すると、ワクワクが止まりません。

エピソード

韓国からの飛行機が到着し、無事に福岡空港に降り立ったとき、心の中に清々しい感覚が湧き上がってきました。それは、新しいチームでの挑戦が終わった安堵感と、機内で過去を振り返り、未来を見据えながらこの文章を書き綴ったことで再認識した「新しい扉がすぐそこに待っている」という喜びが入り混じったものでした。思い返せば、すべての道の起点は修猷での経験でした。

未知なる扉を叩きながら、未来への挑戦に胸を弾ませ、私はまた一つ、次のステージへと進んでいきます。



視覚障害者柔道を盛り上げるために



瀬戸 勇次郎
(平成30年卒)

昨年行われたパリ2024パラリンピックで金メダルを獲得することができました。3年前の東京パラリンピックが銅メダルに終わり、その悔しさから次こそは金メダルを獲ると言い続けた3年間でした。東京大会後に行われた体重別階級の統廃合によって、それまで戦っていた66kg級が消滅し73kg級に階級を移したことで、なかなか思うような結果を出せず苦しい時期が続きましたが、最後にはずっと望んでいた場所に立つことができ、頑張ってきた甲斐があったと思えました。

近年、「福祉からスポーツへ」という流れが強まる中で、パラリンピックはスポーツとしての地位を確立しつつあります。特に、昨年のパリ大会では、史上初めてオリリンピックとパラリンピックで同一の大会エンブレムが使用され、共通のメダルデザインも採用されるなど、オリ・パラ一体化の動きが加速しています。このような動きは、パラスポーツの認知度や注目度をさらに高め、より多くの人々を引き込む絶好の機会を与えてくれています。このタイミングでの金メダル獲得は、視覚障害者

柔道により多くの注目と期待を集めるという点で競技の発展に大きな効果を発揮する可能性があります。

私が金メダルという目標に向かって常に進み続けることができた大きな原動力のひとつは、視覚障害者柔道はスポーツとしてとてもおもしろい競技なので、もっと多くの人に知ってほしい、観てほしい、やってみてほしい、そして視覚障害者柔道を盛り上げたいという気持ちにあります。今回得ることができた金メダルの力は「視覚障害者柔道を盛り上げる」ことのために存分に活用していきたいと考えています。

3年前、東京パラリンピックを終えて感じたことを「パラリンピックを盛り上げるために」という題で、この「菁莪」に投稿しました。障害者スポーツを福祉ではなくスポーツとして盛り上げていくためには競技人口の増加が必要であること、そのためには障害のない人々のパラスポーツへの参加が重要であること、一方で障害者のスポーツの機会を保障するために「障害者スポーツ」とインクルーシブで行われる「パラスポーツ」の棲み分けが必要であることなどがその要旨です。東京パラの後、大学院進学のための研究テーマとしてこの構想を元



に「KUNDE柔道」を発案しました。KUNDE柔道は視覚障害の有無に関わらず、互いに組んで始めるといって視覚障害者柔道のルールで行う柔道のことであり、前述の構想においてはインクルーシブで行われる「パラスポーツ」の位置にあります。このKUNDE柔道が視覚障害のない人々に広がることで、組んで始める柔道の競技人口が増え、視覚障害者柔道の競技レベルが上がるのではないかと考えています。KUNDE柔道を発案以降、パリでの金メダル獲得に向けて稽古を重ねながら、KUNDE柔道を普及させるために主に二つの活動に取り組みました。

そのひとつがKUNDE柔道による試合の実施です。

近年、国内の視覚障害者柔道の現状として競技人口の減少が挙げられています。その要因は視覚に障害がある人が柔道を始める、あるいは続ける環境が非常に限られていることに起因するのではないかと考えられています。より具体的には、視覚障害者に柔道を教えることができる指導者や視覚障害者を受け入れてくれる道場が不足しているという点が課題となっています。この課題に対して、日本視覚障害者柔道連盟では年に数回、全国各地で指導者講習会や体験会を開催し、視覚障害とは何なのか、視覚障害者の誘導・介助方法、視覚障害者に柔道を指導する際に留意する点などを座学、実習を交えて指導しています。KUNDE柔道の発案以降「KUNDE柔道プロジェクト」として、視覚障害者柔道がどのようなものかを実際に体験してもらうために、この講習会や体験会の中でKUNDE柔道

による試合を行うようになりました。参加した子どもたちや指導者の方々に、組んで始める柔道が柔道経験者なら比較的容易に実践可能なこと、晴眼者が行う柔道と大きく違う点などを実際に体験したり見てもらったりして伝えていきます。KUNDE柔道は視覚障害のある人々の受け入れについて、指導することや一緒に稽古することへの不安を軽減し、受け入れ可能な指導者や道場の拡大に大きな役割を果たしています。

私は「KUNDE柔道プロジェクト」発足時からこの指導者講習会や体験会などに積極的に参加して、KUNDE柔道による試合を行なっています。主に地元の学生や指導者の方と対戦しますが、晴眼者の柔道とルールがほとんど同じであるために実力を測るのも容易になります。私自身が障害者スポーツをスポーツとして楽しんでほしいと主張している手前、そのメダリストが弱いと思われるのは興味を持ってくれる人が減るかもしれませんが。視覚障害者柔道の名誉のためにも負けられない戦いです。このようなプレッシャーはありますが、メダルの力を競技普及に活かせる場面のひとつはここであると感じています。東京大会以降、メダリストという肩書きは視覚障害者柔道を知らなかった人々からも注目を集めることができました。今回の金メダルは前回の銅メダル以上にその力は大きいと思われま。KUNDE柔道による試合を見て組んで始める柔道のおもしろさを知ってもらい、多くの人に視覚障害者柔道に興味を持つきっかけを与えていきたいと考えています。

もうひとつの活動は大学院での研究です。大学院入学からパ

ラリンピックまでのおよそ1年半、競技活動と研究活動の両立にはとても苦労しました。調査期間や学会発表と大会の時期が重なり、国際大会の出発前に大慌てで調査の準備をしたり、研究室の先輩に発表を託したりもしましたが、なんとか修士論文として整いつつあります。

研究では、KUNDE柔道をより多くの柔道家に普及することを目的に、晴眼者がKUNDE柔道を実践することによって得られる技術について調査を行いました。当初の構想にあるような、障害のない人を競技人口として取り込み視覚障害者柔道の競技レベルを上げていくためには、彼らが継続的にKUNDE柔道を実践するようになる必要があります。しかし、視覚障害者柔道を知ってもらう理由として従来提示してきたのは障害理解や障害者のスポーツ環境の整備などの観点で、これらは障害者の権利や利益に着目した「福祉」の視点であり、晴眼者の善意によって成り立つものでした。この視点だけでは視覚障害者柔道をさらに広く普及させることは困難だろうと私は感じていました。

そこで着目したのが「スポーツ」としての側面である技術でした。競技として柔道に取り組む人や趣味として道場に通う人々にとって、柔道の技術はとても関心が高いポイントと言えます。KUNDE柔道の実践によって向上する技術を明らかにすることができれば、多くの柔道家にKUNDE柔道を継続的に取り組む動機を提示することができます。KUNDE柔道の競技人口の増加によって組んで始める柔道の知識や経験が晴眼

者に広まれば、視覚障害者が柔道をする環境の選択肢が増え、視覚障害者柔道の競技レベルの向上が期待できます。

これまで一人人の考えでしかなかったKUNDE柔道を「研究」として文献にできたことには非常に大きな価値があります。また、これを当事者である選手自身の手で行えたことにも大きな意義があったと思っています。今後はKUNDE柔道をより多くの人に普及させるために、組んで始める柔道の技術についてさらに詳しく探究していくとともに、研究の成果をさまざまな場面で発信し、KUNDE柔道をプロモーションしていこうと考えています。

東京からパリまでの3年間で取り組んできたこれらの活動は、私に新たな知見や多くの経験を与えてくれました。特に普及に関わる活動を競技活動と並行して行えたことで、競技の普及、



新たな選手の発掘・育成、メダル獲得のための強化の全てが地続きであり、共通の目標の下に結びつけて連携して行うことが持続的な競技発展には欠かせないことをより身近に学ぶことができました。これは今後私が視覚障害者柔道の発展のために活動していく上で貴重な経験であったと思います。

パリ2024パラリンピックで柔道日本代表は金メダル2個、銀メダル1個、銅メダル1個の計4個のメダルを獲得し、前回

東京大会の銅メダル2個から大躍進を遂げることができました。しかし、メダルを獲った選手はいずれも東京大会も経験している選手であり、また国内の大会に出場する選手の数は依然として低迷するなど、東京からパリまでの3年間で選手の発掘・育成・強化には大きな滞りが生じており、次回大会以降に課題を積み残している状態です。KUNDE柔道の普及がこの現状を即時に打開することは難しいかもしれませんが、十年後、二十年后に日本の視覚障害者柔道が安定して金メダルを獲り続けることができるように、この3年間の経験と金メダルの力を存分に活かして、視覚障害者柔道を盛り上げるための活動を一歩一歩地道に続けていきたいと思えます。

最後に、今回のパリ2024パラリンピック出場にあたって多大なる応援、ご支援をいただきました館友の皆さまに、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

プロフィール

瀬戸勇次郎（せと ゆうじろう）

平成30年卒。福岡県糸島市出身、平成12年生。先天性の弱視により視力は0.05程度。4歳で柔道を始め、高校3年時に全国視覚障害者学生柔道大会に初出場。福岡教育大学教育学部に進学し東京2020パラリンピック柔道男子66kg級で銅メダル獲得。大学卒業後は令和5年から筑波大学大学院に進学し九星飲料工業株式会社所属。パリ2024パラリンピック柔道男子J2クラス73kg級金メダル。柔道四段。

投稿

心の扉をあけるかぎ

いのちの電話をご存じですか？



五斗 美代子

(昭和33年卒)

現代社会ではさまざまな悩みや不安を抱えながら身近に相談する人もなく、生きる力を失っている方が少なくありません。いのちの電話はそういう孤独な人に電話を通じて、訓練を受けたボランティア相談員が相手になり寄り添う、市民のためのボランティア活動です。

いのちの電話は70年前、イギリス国教会牧師チャド・バライがある少女の自殺に出会い、苦しみ悩む人が誰かにその悩みを語れば自らの命を絶つことはなかったのではないかと「サマリタンズ（良き隣人）」という電話相談を創設したことに始まります。その10年後、オーストラリアの牧師によって「ライフライン」が設立され、現在では世界100余の国にあります。

日本では50センターが開局しています。福岡には40年前に誕生しました。当時医師会長の阿部輝明先生（初代理事長）が関

係されていたライオンズクラブの有志の間で、福岡にも「いのちの電話」を開設しようという動きがはじまり、キリスト教会牧師、お寺の住職、弁護士、大学教授、企業の方々など多彩な顔ぶれが集まりました。私は当時、福岡市青少年相談センターに勤務しており、声をかけていただきました。相談員の募集、養成、場所の確保など具体的準備が進み、1984年10月22日に最初のベルがなった時の感動が今でもあざやかに思い出されます。

いのちの電話は無償のボランティアが電話を受けており、特徴は①電話のかけ手も受け手も匿名（必要な家族以外にボランティアであることを言わない）。②相談内容の秘密を保持する。③かけ手の話を傾聴し、共感する。④特定の価値観、宗教的立場で説得しない。⑤24時間年中無休で相談を受ける。などです。ボランティアを続けるには毎年各種の研修に参加する義務があります。私自身は、はじめは相談ボランティアとして認定も受けましたが、研修をクリアすることが時間的に難しかったこともあり、スーパーバイザー、教育委員、理事等として関わらせてもらいました。

現在、福岡いのちの電話は170名の相談員が年間1万3千件ほどの相談を受けています。相談内容はうつ病、統合失調症等の精神疾患、孤独、失業等の人生問題、家庭関係、性にかかわることなど様々であり、自殺の相談は千件余です。特に自殺など直接的のちにかかわる電話を受ける時、相談員は緊張します。一時期自殺者が3万人を超えていましたが、一昨年2万人台

になりました。しかし、決して少ない数ではありません。思いがけないコロナの発生や社会の経済状況から苦境におちいった若い女性の自殺、いじめなど子どももの自殺は増加しています。種々の社会の変化は温かい人間関係を育み難く、生きづらいつ代になりました。

私が30歳の時、学生運動が盛んでした。子どもの頃からの親友が当時大学に勤めていましたが、その混乱の中にあつてある日自らの命を絶ちました。突然の死の知らせに、御両親をはじめ私達の驚きと悲しみはいい知れぬものでした。御両親が亡くなられるまで何十年も命日に集い、彼女を惜しみました。人の命は何ものにもかえ難い大切なものです。今悩み、苦しんでいる人が電話で話し、心の重荷を軽くして、生き続けて欲しいと思います。

いのちの電話を維持するために、借室料、研修、広報、事務など資金が必要です。特定の資金源がなく、市からの補助金、企業、個人からのご支援で運営していますが、最近収入が減少し頭を痛めています。一人でも多くの方にいのちの電話の活動を知っていただき、御支援、御協力をいただければ幸いです。

ひとりで悩まない。
あなたがいたらとき
近くにいます

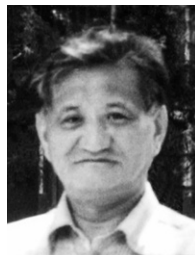
相談電話（24時間年中無休）
福岡いのちの電話
092-741-4343

フリーダイヤル（毎月12日午前9時から12日午前9時まで）
自殺予防いのちの電話 0120-783-556

社会福祉法人福岡いのちの電話
事務局 電話：092-713-4343

※先日をいただきました。ご支援、御協力をいただき、ありがとうございました。13万円の募金を募りました。皆様からのお礼と御報告させていただきます。

修猷館の主（ぬし）



福地 祐一
(昭和37年卒)

我が母校の修猷館には、修猷館を愛するあまりに、他校への転勤や校長、教頭への昇進を望まず、何十年も修猷館の教員として在籍する修猷館の主と言うべき先生方がいる。

私が修猷館在学中に印象に残った先生方の一人に十河先生と言う教頭先生がいた。十河先生は、校長になることを望まず、20年以上も修猷館に教頭として留まり、まさに修猷館の主と言うべき存在であった。先生は漢文の授業でよく私たちに、「小人（しょうじん）になつてはいかん、大人（たいじん）になれ」と言われた。当時は、その言葉の意味がよく分からなかったが、今では、その言葉を修猷館で学んだ者としての矜持を持った人間となれとの教訓であったと理解している。

私が修猷館に在学した3年間は、新聞部の活動で勉強する暇がないように忙しかった。取材をして記事を書き、それを紙面に割付け、原稿を印刷所に持ち込み、刷り上がったゲラを校正する。紙面には広告を取り、放課後に集金にも回らねばならない。当時は西日本新聞社に修猷新聞の印刷を頼んでいたが、原

稿を持ち込むいわゆる原入の当日は、部員数名で授業を抜け出して西日本新聞社に詰めた。

授業中に後輩の部員を呼び出すために教室の窓ガラスをコンコンと叩いていると「こらーなんやー」と授業中の先生が出てきた。国語の小柳先生である。小柳先生も修猷館に永年勤続する有名な先生で修猷館の主の一人であった。私が先生に事情を話すと「よし、分かった。望月行ってこい！」と後輩を気持ちよく送り出してくれた。

授業を抜け出すには欠課届けを教頭の十河先生へ提出してその許可を得なければならなかった。十河先生は「お前たちは勉強がしたくないっちゃないとや！ これまで欠課届けがこげん沢山でとるぞ！」と言いながらもポンと許可の判を押してくれていた。

また私の在学中には堺先生という有名な数学の先生がいたが、この先生も転勤の勧めを断り、平教員として何十年も修猷館に在籍していた方である。先年亡くなられた新聞部の先輩である社会科の水崎先生も平教員を永年続けられた修猷館の主の一人である。

修猷館の館長は長くて3年、早ければ1年で交代であり、館長が修猷館の良き伝統を理解してきたころにはもう退任である。従って、修猷館の良き、修猷生の自由闊達さや自主性の尊重という修猷館の良き伝統と言うべきものは、修猷館に永く在籍し、修猷館の主と言うべきこれらの先生方によって受け継がれて修猷館に浸透してきたと言える。

現役の修猷館の先生方の中で特筆すべきは、国語の泉順子先生である。泉先生は、永年新聞部の顧問をされており、新聞部のOB会長を務めていた私とは長い付き合いである。泉先生は物静かで大人しく見えるが、芯は強い。先生は修猷館に長く在籍し、私の息子と孫の授業も担当された。

一昨年、当番学年であった息子の誘いで東京修猷会に出席したが、当日、泉先生が来賓として招待されており、館長挨拶に続いて教員代表として登壇されたのは泉先生であった。私は難聴のため泉先生の話は良く聞き取れなかったが、後で息子に聞いてみると先生はいい話をしてくれたという。

それはそうだろう！

泉先生は立派な修猷館の伝統の承継者の一人だから！



中村研一画伯のフランス展覧会入選の絵



吉田朋春

(昭和40年卒)

中学修猷館大正3年卒の中村研一画伯(1895年(明治28年)生〜1967年(昭和42年)没)が、戦前パリ留学中の1926年(昭和元年)に、フランスの権威ある展覧会サロン・ドートンヌで入選を果たした少女の絵「小さき魚つり」(30号・1926年作)が、一昨年(令和5年)6月に埼玉在住の従兄から、宗像市の中村研一・琢二生家美術館に寄託され、福岡県立美術館の学芸員による鑑定に私も立ち会いました。

私が昭和40年に大学受験で上京した際、当時横浜在住の伯父の家に泊めてもらったのですが、初めて泊まったその家の応接間には、大きくて立派な額装の少女の絵が掛けられていました。当時はその絵の作者が誰であるかとか、戦前に亡くなっているのも顔も知らなかった私の祖父良春が、同じ宗像出身で著名な画家の中村研一・琢二兄弟と浅からぬ縁があったことなど知る由もありませんでしたが、その絵が発するオーラに圧倒された私の記憶には長く留め置かれることになりました。

祖父は、研一・琢二兄弟の父中村啓二郎氏とは無二の親友であつた縁で、昭和4年の研一画伯の結婚の際には媒酌人を務めました。そのお礼に画伯から「どれでも好きな絵を持って行って下さい」と言われてこの絵を所望したのです。その謂れを知る伯父が、貴重なこの絵が戦後のどさくさで散逸しないようにと保有してきたのでした。伯父夫妻が亡くなりあの絵はどうなつただろうと思つていましたが、伯父の長男の従兄が平成31年に亡くなつて、宗像の菩提寺にあるお墓に納骨するために来福したご子息に尋ねたところ、伯父の次男の埼玉在住の従兄が受け継いでいることが分かり、生家美術館の中村嘉彦氏にお知らせして、コロナ禍が落ち着いた一昨年4月に一緒に上京して寄贈の意思を確認し、6月に生家美術館に移送され寄託された次第です。

額縁の裏には「謹呈吉田良春様 昭和4年1月 研一・富子」と書いてあつて、媒酌人を務めたお礼に貰つたものであることが確認でき、画伯にとつては留学中のフランスで入選した記念すべき絵でしたから、しぶしぶ手放したのではないかといひ伝えられていました。



画伯の結婚式の写真

また画伯の父啓二郎氏は、「絵を買ってもらいたいと思つていとお辞儀をしたくなる、そういう画家にはなるな」と、画伯が東京美術学校の学生の時に代々木初台にアトリエを建て、絵を売らなくても生活できるようにしたのですが、終戦直前の空襲でアトリエが焼けてしまったために、画伯がパリ留学中など30〜40歳代に描いた作品が焼失してしまいました。皮肉にも絵を売らなかつたことで、戦前の作品が殆ど残らないという結果を生んでしまったのですが、祖父が所望したお蔭でこの貴重な絵は焼失を免れたのです。

この絵は修復の後、福岡県立美術館の「中村研一と中村琢二展」で、昨年（令和6年）12月21日から本年（令和7年）2月2日まで公開展示され、描かれてから百年近くも経つた今日、画伯の地元で陽の目を見ることができました。誠に奇縁の賜物と思わざるを得ません。



「小さき魚つり」
(1926年 中村研一・琢二生家美術館寄託)

七獣会キャリアセミナー



安部 祐子

(平成7年卒)

デジタル化やグローバル化の進展に伴い、新しい職業が次々と生まれ、従来の働き方や価値観も大きく変わってきている。このような中、中学校教諭を職業とする私にとって、修猷館の同窓生が広い世界で活躍する姿はとても刺激的で、常日頃から中学生にも紹介していた。このキャリアセミナーは、修猷館の先輩から直接話を聞くというなかなかできない取組である。これから活躍する後輩達のために何か力になりたいと思い、取りまとめ役を引き受けた。

講師募集には、SNSやアンケートフォームを活用した。私たちの高校生当時はまだポケベル時代の始まり。卒業後は連絡先を直接お互いに繋いでいくしかない。卒業十周年から約五年おきに同窓会を開いてその幅を広げていった。同窓会幹事執行部のメンバーも、仕事やキャラバンで県外に出た時に、積極的に声をかけてくれた。おかげで内諾をたくさんいただき、最後

は部会メンバーから直接電話やメールでその概要を伝えるという流れで、いろいろなジャンルの同級生が集まってくれた。このデジタルの時代にも、やはり直接のコミュニケーションは、人の心を動かすと思える。忙しい中にも引き受けてくれた講師の皆さんにも、ぜひ自分の思いを楽しみながら話してほしいとお願ひして、準備を進めてもらった。

当日は、卒業当時とは違う新しい校舎に「土足でいいとかいな」と戸惑いながらも、続々と集まってくる同級生に会うと、久しぶりの再会を喜び、お互いに歳を重ねたことを確認し合いながら、緊張感もほぐれた様子だった。そして本番。代表の生徒が順に迎えにきて「〇〇先生お願いします」と講師が呼ばれるのだが、控室はなぜか高校生の時の教室のように盛り上がりつつあった。おかげで講師陣は笑顔で各教室へ出発していった。

学生時代から起業経験のある彼は、ITコンサルタントや経理、投資など経験したことを活かし、その場で生徒の希望に因應するため、いくつものメニューを準備して臨んでくれた。

農学部卒業後、理学療法士の学校に行き病院勤務、さらに教員免許をとって体育教師になった彼女は、特異な経歴の話と得意な身体ほぐし運動を行いながら生徒の心を掴んだ。

高校時代に映画制作部を立ち上げ、仲間らと自主映画を作ったことがキャリアの原点となった彼は、脚本家として、映画制作部の後輩たちに直接思いを伝えた。

高校物理では赤点続きだったけれども現在物理学者となった彼は、ミクロの世界についてその面白さを後輩たちに伝えたいという思いで、金沢から日帰り駆けてつてくれた。

高校卒業後三十年、自分のやりたい仕事をずっと貫いてやってきた人、紆余曲折あったけれども今自分がやりたいと思える仕事についている人、それぞれのキャリアを積み重ねて今がある、そしてさらに夢をもって今を楽しんでいる講師陣の姿こそが、このキャリアアセミナーで私が伝えたいと思っていた「かつこいい大人」の姿だったと思う。本当に講師を引き受けてくれた皆さんに感謝したい。キャリアアセミナーを終えて、控室に戻った講師陣の顔は、高校生に負けなくらいキラキラしていた。

セミナー終了後、私たちが三年間お世話になった浅田先生、泉先生が控室に来て話をしてくださった。その中で「卒業後三十年たつて、教え子の活躍を目の当たりにできることが嬉しい。」とおっしゃったことは、同じく教師を仕事とする私にはとても印象に残っている。中高生で関わった生徒が、大人になっても夢をもち一生懸命に生きる姿は、感慨深いものである。全ての日程終了後、次の日の総会の準備や、都合がつかない講師もいて全員ではなかったが、同窓会館でささやかながら打ち上げを行った。キャリアアセミナー部会員や応援に駆けつけてくれた執行部メンバーも含め、講師一人一人が現況と当日の感想等を発表した。全員が報告し終えるまでに、気づけば開始から四時間を過ぎていた。改めて同級生の歩んできた人生や生き方に触れ、刺激をもらった。高校生にわかりやすく伝えるために多くの時間を割いて準備してくれたこと、講師をやったよかったですと言ってくれたこと、生徒が感想に何かしらを感じ取っ

て書いてくれたことを聞いて、私の涙腺は緩みっぱなしであった。キャリアアセミナーを終えた講師たちからの感想を一部紹介する。

・ 人生の折り返しに何か人のために出来ることはないかと考えていたので、参加して良かった。
・ これまでの三十年の答え合わせが出来たようで非常に有意義だった。

・ 未来ある高校生が、キラキラした眼差しで自分の話を聞いてくれたので、日常では味わえない充実感だった。
・ 現役の時にもこういった機会があったらよかった。他の同級生の講義もぜひ聞いてみたいものがたくさんあった。

さらに、ぜひ職場を見てみたいと生徒から連絡があり、実際職場であるテレビ局を案内したという後日談もあった。また、同世代である自分の子どもにもぜひ同じような機会をといて願いから、子どもの部活の親子合宿にて、保護者によるキャリアアセミナーを実施した講師もいる。

このような機会を与えてくださった修猷館高等学校ならびに同窓会の皆様にも深く感謝申し上げます。



令和6年度 卒業生キャリアセミナー

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 濱邊 和揮 | ☆町弁（まちべん）奮闘記☆ | 藤吉 順子 | 小児科、新生児科医とは？ |
| 吉永賢一郎 | ビジネスに必須の会計税務を学びませんか？ | 林田 英一 | 医師になって思うこと。
開業医になって考えること。 |
| 中原 將隆 | 「ゼネラルを持ったスペシャリスト」は証券マン？ | 大城あずさ | 障害児医療・福祉
～「治らない患者さん」に寄り添い続ける～ |
| 徳永 将章 | 「夢」を決めつける必要はない | 松田 聡士 | エンターテインメントの仕事について |
| 中村 哲 | 世界の全てを知り、世界の全てに答えたい。“考え続ける人”としての経営コンサルタントの可能性 | 入江 信吾 | 君たちはどう生きるか？
～脚本家というお仕事～ |
| 椎野 健一 | 色々な職種のカリヤアプランや起業、IT等希望に合わせて語ります！ | 三浦 良介 | テレビはオワコン？！
ネット時代にローカル局の報道記者が伝えたいこと。 |
| 的射場智之 | 人事歴20年の人事パーソンが考える「キャリア」とは。 | 浦元久美子 | 出逢いを大切に（すべての出来事には意味がある）！～まさか自分が教師になるとは…～ |
| 近藤 恭子 | 「仕事をするってどういうこと？」もやもやするみなさんと一緒に考えたい | 許勢 仁美 | 働きながら学び、学びながら働く、自分で作る自分のキャリア |
| 佐藤 史子 | 企業の研究所での働き方
～グローバルIT企業のソフトウェア研究開発～ | 藤田 裕史 | 高校生の社会学
～はたらくことを考える～ |
| 松本 武彦 | 自分の興味のあることを常に意識して進もう | 荒木 雪葉 | ことばと文化 |
| 山本三恵子 | 「IT系」ってどんなお仕事？
～私はアプリケーションエンジニアをやっています～ | 吉田 靖雄 | 量子の力で原子を見る究極の顕微鏡
～赤点高校生だった物理学者によるミクロな世界のお話～ |
| 國房 義之 | 電子部品メーカーでの新規事業開発の魅力 | 伏原 実 | 道路や橋、トンネルなど、地図に残る仕事ができる技術系公務員 |
| 伊藤 大和 | 食品の商品開発の魅力
好きを仕事に | 米原 泰裕 | 金銭的利益を追求しない“しごと”について |
| 西村 將生 | 大学でなんとなく金属を学んだ私が、総合化学メーカーでサステナブルなバイオ技術を世に送り出すまで | 宮崎 真吾 | 9時5時から24時間365日まで
～福岡市職員という職業～ |
| 岩尾 拓美 | VIVANT（別荘）
～英語を使わない商社マン～ | 瀬角 南 | NGO/NPOで働こう |
| 川端 成二 | 薬剤師から製薬企業へ | 吉田 貞信 | ラグビー部の仲間たちと一緒に起業したりしながら自分らしく生きていく方法 |
| 田頭 仁美 | 二代目薬局薬剤師が訪問看護ステーションを立ち上げた！
どうする？どうなる？地域医療！ | 中西 洋彰 | しくじり先輩
～失敗して無職も経験したけど、楽しく生きているコツ～ |
| 阿部 清美 | 臨床も研究も教育も！
～いつでもどこでもキャリアアップ～ | 河井 志帆 | 立ち上がれ、修験生よ！
天下一人を以て興れ!! |
| 吉村 壮平 | 医師免許を取ったら、どう生きる？ | 中島 朋子 | 海外とのビジネスについて |

修猷館の彫刻家



小田部 黄太

(昭和53年卒)

私は彫刻を制作しており、資料館の外に寄贈させていただいた私の作品がある。その関係で資料館の彫刻作品のキャプション用の説明文を書かせていただき、今回はその資料館の彫刻について「菁莪」に原稿を書かないかとの依頼をいただいた。

修猷館出身の画家についてはいくつか書かれたものを目にする機会もあるが、彫刻家については寡聞にしてあまり目にする機会もない。私は研究者ではなく、一彫刻の作家に過ぎないため、修猷出身の彫刻家を網羅しているとは到底言えないが、資料館の作品とその作家から、さらに修猷館にゆかりのある彫刻家について書いてみたい。漏れや間違いなどもあるかとも思うがご容赦いただきたい。

まずは資料館にある作品から述べる。

○安永 良徳・母子像 — 資料館の入り口のブロンズ像 —

安永 良徳（大正8年卒）（1902年～1970年）は旧福岡藩士の長男として横浜に生まれ、全国を転々としたのち中学修猷館を卒業、成績優秀な特待生として東京美術学校に進み、修猷館、東京美術学校の先輩である洋画家・中村研一の自宅などで詩人サトウハチローとも交流があった。卒業後彫刻家として活躍していたが、第2次大戦での出征からシベリアに抑留され、1947年に復員、その後は福岡に定住した。戦後は福岡在住でありながら「日展」の審査員をしばしば務め、「日展」参与、福岡県美術協会理事などを歴任している。作品は福岡市美術館、福岡県立美術館の屋外作品、西公園の平野次郎國臣像、博多駅の博多節舞姿等、福岡市内等に多数ある。

資料館の作品「母子像」は安永が繰り返し制作しているテーマでもあり、そう大きな作品ではないが、おそらく安永が脂の乗り切った時期の作品で、代表作といっても過言ではない。安永は私が知る限り修猷館卒業生で最も偉大な彫刻家であろう。実は私の父（彫刻家・小田部 泰久1927年～2008年）旧制筑紫中学、東京芸大）が安永良徳に師事しており、私は幼少のころ、父に連れられ安永のアトリエに何度か行った覚えがある。幼心の印象では温厚ではあるが眼光鋭く、非常に存在感のある印象で、今風に言えばオーラがあった。

○宮崎 準之助・四隅

宮崎 準之助（昭和24年卒）（1930年～1989年）は福岡市に生まれ中学修猷館を卒業後、京都学芸大学（現京都教育大学）特修美術科で彫塑を学ぶ。卒業後北九州で聾学校等の美

術教師を務めながら前衛美術集団「九州派」に参加、九州派解散後も芸術を生活者の視点でとらえるという思想に誠実に向き合い、楠（くすのき）を主素材として温かみのある抽象木彫作品を制作した。作品は福岡県立美術館、福岡市美術館等に多く収蔵されている。

資料館の作品「四隅」は、その題名から個展の際などに展示室の四隅に置かれていたのではと推察される。「隅」は「偶」に通じ、人の形を重ねているのでは、と見ることもできる。私は1986年、東京京橋のINAXギャラリーでの個展「くすぐるま」に行き、宮崎と話をしたことがある。当時、私は大学を出たばかりで宮崎が56歳、けれども、派手さのない人物と記憶している。訥々とお話しいただき、作品と同じように温かく実直な印象であった。

○木戸 龍一・材木

木戸 龍一（昭和31年卒）（1937年）福岡学芸大学（現福岡教育大学）美術科卒業、個展、グループ展等で木彫を中心とした抽象彫刻を発表している。また、現代日本美術展、ヘンリームーンア大賞展等へ出品、1981年第1回びわこ現代彫刻展では優秀賞受賞等、野外彫刻も多く手掛けている。「菁莪」の記事として特筆すべきは、中野正剛像（中央区今川）の制作であろう。加えて進藤一馬像（福岡市美術館）等、木彫の抽象作品を主戦場としながら、優れた肖像彫刻やミニメントも多数手掛けている等、実に多才な作家である。また、九州造形短期大学学長、福岡県美術協会理事長を歴任し、福岡の美術文化

の発展に大きく寄与した。木戸は修猷館在学中は美術部ではなく柔道部であった。まさに中野正剛、広田弘毅の後輩であり、その学年は戦後で最も強かったといわれている。

資料館の作品「材木」は1970年代に発表された「材木」シリーズのなかの1点である。四角い材木が、有機的な動きのある形態へ変化する様は、木戸の木彫表現の真骨頂といえる。

木戸は私の父と若いころからの旧知であり、私も物心ついた時よりよく存じあげている。公私にわたり大変にお世話になっている。

○小田部 黄太・RYU（資料館石奥の屋外作品）

小田部 黄太（昭和53年卒）（1959年）東京芸術大学彫刻科卒業、主に個展・グループ展を中心に鉄、銅、真鍮等の金属を素材とし抽象彫刻を制作している。

自分自身のことを書くのはいささか気恥ずかしいが、私も美術部ではなく柔道部であった。また、現在九州産業大学造形短期大学部（旧九州造形短期大学）の学長であり、福岡県美術協会理事長（安永、木戸、そして私の父も歴任）に任じられている。先達には比ぶべくもないが、縁（えにし）の様なものも感じており、制作も含め恥ずかしくない取り組みをせねばと改めて思うところである。

さて、資料館の作品について述べてきたが、残り僅かな紙面で触れておきたいのは美術科の恩師である。お二人、彫刻に係した恩師をご紹介したい。お一人は私の在学中におられた河原大輔先生（昭和38年～昭和54年在任）である。先生は作家

としては油彩を制作されていたが、東京美術学校の彫刻科のご出身である。私もご自宅でのデッサン教室で手ほどきを受け、この世界に入ることのきっかけをいただいた。美術部でも多くの作家を育てられている。お二人目は松重 明先生（昭和60年〜平成13年在任）である。石彫をご専門とされ、私も長くグループ展で一緒にさせていただいた。修猷館の南門に入った右側（資料館とは逆側）に作品も設置されている。教え子に作家活動をしている者も少なくない。

その他の卒業生の彫刻家等

○竹中 正基（昭和29年卒）福岡学芸大学（現福岡教育大学）

美術科卒業、木彫の抽象作品を制作

○河原 美比古（昭和42年卒）東京藝術大学彫刻科卒業、建築

事務所「ラントマン」主宰、河原 大輔先生のご子息、木彫

の抽象作品等を制作

○増本 達彦（昭和63年卒）福岡教育大学美術科卒業、松山東

雲大学教授、木彫の抽象作品を制作

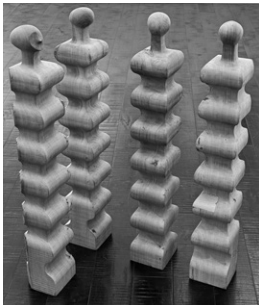
○中村 弘峰（平成16年卒）博多人形師、福岡大名ガーデンシ

テイのこま犬を制作、東京芸術大学彫刻科卒業で、博多人形、

そして現代工芸をしょって立つてあるう若き逸材である。柔

道部。

以上、ぜひ資料館でご覧いただきたい。その他の彫刻家についても検索などしていただき、作品をご覧いただく機会があれば幸甚である。



宮崎 準之助 「四隅」



小田部 黄太 「RYU」



木戸 龍一 「材木」



安永 良徳 「母子像」

修猷資料館の一般公開日については、修猷館高校HPでご確認ください

<https://shuyu.fku.ed.jp>

部活OB会

― 水泳部OB会（星泳会） ― 「創部百周年」を迎えて

星泳会会長

西村正美

（昭和43年卒）

水泳部は大正14年に創部以来、お陰様で本年度百周年を迎えます。

創部以来、ベルリンオリンピック平泳ぎで見事金メダルを獲得した葉室鐵夫選手や日米対抗試合に出場した後、に国会で活躍した樋崎弥之助選手ほか幾多の選手が国体やインターハイで輝かしい成績を残しております。昭和3年に初代プールが完成後、昭和42年に二代目を経て、平成17年に現在のプールが施工されました。現在は男女合わせて約50人の部員が練習に励んでおります。水泳部のOB会「星泳会」主催にて百周年祝賀行事を次の通り計画しております。



合宿見舞い

「水泳部創部百周年記念行事」

■令和7年6月14日（土）修猷館内にて

* 記念講演 スポーツドクター金岡恒治氏（昭和56年卒）

* 現役との交流会 交換リレー・記念品贈呈等

■同日18時より 市内ホテルにて記念祝賀会

■百周年記念誌の発行（令和7年秋予定）

■記念行事のお問い合わせ 星泳会

会長 西村正美（昭和43年卒）

事務局長 重岡昌伸（昭和53年卒）

― ラグビー部OB会 ―

創部100周年記念事業のお知らせ

修猷館ラグビー倶楽部会長

武藤英治

（昭和45年卒）

100周年記念事業実行委員長

堀内恭彦

（昭和59年卒）

ラグビー部は令和7年春に創部100周年を迎えます。大正

14年の創部以来、国体優勝、全国大会出場など幾多の優秀な実績を挙げ、近年も全国選抜大会への出場を果たすなど、「公立伝統校の雄」として活動しています。この間数多の優秀な選手や人材を送り出し、福岡、九州、日本のラグビー界に貢献してまいりました。ここに、さらなる飛躍を目指して、「弥栄（いやさか）」をテーマとした記念事業を開催いたします。館友の皆様にはさらなる御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【記念事業 概要】

- 1 令和7年4月26日（土） 於 修猷館高校
① 記念試合 vs 福岡高校（現役戦、OB戦）
 - ② 記念講演 廣瀬俊明氏（元ラグビー日本代表主将）
 - ③ 記念式典（講堂にて開催）
- 2 令和7年9月頃 大阪遠征
～花園ラグビー場にて試合（現役戦、OB戦）

【お問合せ先】

100周年記念事業実行委員長 堀内恭彦（昭和59年卒）



— 野球部OB会 —

創部130周年記念行事のおしらせ

野球部OB会会長

下川 達史

（昭和56年卒）



創部130周年にあたり、OB会では世代を超えて親睦を深め、後輩たちを支援する記念行事を実施します。記念祝賀会は野球部のこれまでの道のりを共有し懇親を深める会となるよう準備を進めています。また、祝賀会翌日には記念試合を行います。人工芝となった懐かしいグラウンドで後輩たちを応援しましょう。昨年の秋季大会ベスト4進出をはじめ、ここ数年の現役の活躍は目覚ましいものがあります。波多江監督（平成2年卒）の指導の賜物ですが、OB会贈呈のピッチングマシンも貢献しています。夢から目標となった悲願の甲子園を支援する募金への協力を改めてお願いいたします。

■記念祝賀会 2025年6月7日（土） 18時より

会場…ソラリア西鉄ホテル福岡

会費…平成26年卒以前12,000円

平成27年卒以降 8,000円

■記念招待試合 2025年6月8日（日） 12時半頃～（予定）

会場…修猷館高校グラウンド

招待校・熊本県立済々黌高校

■募金活動 1口 1万円 (野球部OB以外の方の寄付も大歓迎です。)

ピッチングマシン、防球ネットなどを贈呈し現役の練習環境改善を支援します。野球部OB以外の方からの寄付については、お問い合わせください。

■行事出欠、会費・寄付金の連絡は左記QRコードよりお願いします。

■連絡・お問い合わせ先

野球部OB会会長 下川達史 (昭和56年卒)



― 書道部OB会 (墨猷会) ―

前墨猷会副会長

平 田 道 彦

(昭和51年卒)

十年程休止していた墨猷会 (書道部OB・OG会) 再開のため、連絡先を募っています。1年以内にemailの届いていない方は、昭和54年卒 菊池苑 (学年一口アンテナ連絡先に同じ) お知らせください。

《部活OB会の情報をお寄せ下さい!》

「菁莪」では、部活動を通じた同窓生の交流に関する情報も掲載したいと考えています。部活OB会の連絡先の集約にご協力ください。

①部活OB会名称 ②代表者氏名 ③連絡先・担当者氏名 ④活動内容 (予定含む) など、同窓会事務局までお寄せください。よろしく
お願いいたします。 菁莪編集委員会

花盛り同窓会

同窓会総会報告



七猷会 実行委員長

古賀裕介

(平成7年卒)

七猷会が幹事学年を務めた東京修猷会総会の打ち上げでのことでした。

福岡での幹事学年を翌々年に控えて無邪気に飲み語り合っていて、まさかそんな状況になろうとは想像だにしませんでした。

「福岡の実行委員長は古賀君やろ？」

恩師泉順子先生のこの鶴の一声がきっかけでした。

その一声に悪ノリしはじめた七猷会メンバーに抵抗するも虚しく、

「お前しかおらんやろ！」

生殺与奪の権を握る元館長岡本圭吾先生の押しの一手により、私の実行委員長としての2年間が幕を開けたのでした。

そんなスタートから何とか走り切り、令和6年5月25日『修猷大会合(グレートコンジャンクション)』集えよ健児千一人

〜と題し、ホテルニューオータニ博多において同窓会総会・懇親会を開催することができました。

「とにかくオープニングよ」「インパクトやね、欲しいのは」「おれらの企画は、今までになかったもんじょうや」「やっぱ記憶に残らないかんよ」

準備段階ではとにかく皆で語りましたが、懇親会を開催するにあたって我々が特にこだわったのは、オープニングと学年企画でした。

とにかく初っ端にインパクトを残したかったオープニング動画には、修猷資料館において様々な年代の修猷館の記憶を集め、過去を知ること弛まず未来へすすむための意義深い総会にしたいという思いを込めました。

固唾をのんで皆さんの反応をうかがっていましたが、「映画の予告編を観ているようでドキドキした!」「あの動画で心を鷲掴みやった」という声を多くいただき、そこで少し気の張りが解けたのを覚えていきます。

学年企画では、会場にいらつしやる全世代の皆さんを巻き込んで楽しむ参加型の大運動会を行いました。ここが緊張のピークでした。過去にない初めての目論見だったこともあり、「そもそも参加してくれるだろうか」「参加してくれたとして楽しんでもらえるだろうか」等々不安もありましたが、「もつと種目をたくさんすればよかったのに」「運動会にもう少し時間は割いてよかったのに」「今日来てよかったばい!」「歴史に名を残したね!」とポジティブな言葉を多数いただき、その言葉を

かみしめながら、当日の打ち上げでは苦勞と工夫を重ねた甲斐があったと七猷会一同朝方まで杯を重ねました。

七猷会の仲間たちが、それぞれ忙しい中でも少しづつ知恵や勞力を提供しながら、後にも先にも存在しえない唯一無二の時間を共有して繰り出で創りあげたからこそ、『歴史に名を刻んだ』と称された同窓会ができたのではないかと自負しておりますが、そこには、同窓会常任幹事及び事務局の皆様や各支部の方々、そして会に参加いただいた先生方や館友のサポートなくしては到底たどり着けませんでした。館友の皆様の力添えの大きさを改めて実感しています。

同窓会当日までの準備期間で感じられたのは、何の利害関係もなく、同窓というただ一点の共通点のみであるにもかかわらず、先輩も後輩も館友の皆さんが快く自身の時間を割いて、情熱をもって七猷会に協力してくれる、まさにそういった修猷「愛」です。創立から240年もの間、そんな愛ある人間が集い、語りの文化の中でその愛を紡ぎ続けてきたからこそ、「修猷館」という存在が今もお輝き続けているのではないのでしょうか。

現在もう既に、平八会（平成8年卒）が令和7年度の同窓会総会・懇親会の準備に入っていますので、七猷会の仲間たちとともに、今後を担っていく後輩たちに愛をもってバックアップしながら、さらに盛り上げていきたいと思えます。

東京修猷会総会報告

実行委員長

竹野 耕平

九猷会（平成9年卒）



令和6年6月14日（金）、東京プリンスホテル鳳凰の間にて、東京修猷会総会を開催いたしました。総勢441名の方々にご参加いただき、盛況のうちに無事終了しました。テーマである「九結（きゅうゆう）〜未来のために、繋がりを結ぼう〜」は、修猷で築かれた深い絆を、未来に向けてさらに強固にしていくことを象徴しています。

ここ数年、総会はオンラインやハイブリッド形式で開催されてきましたが、今回はオンラインなしの完全リアルな会場での開催に戻りました。会場選定に際しては、コロナ前に利用していたホテルが大規模な宴会を受け付けなくなっていたため、ゼロベースでの検討を余儀なくされました。10以上のホテルに打診し、なかなか空きが見つかからない中、最終的に東京プリンスホテルに決定しました。ホテル側との交渉に際し、「The Okura Tokyo」総支配人の高柳健二先輩にアドバイスをやご助力を賜り、これがうまくいった大きな要因となりました。

総会は三部構成で、第一部が東京修猷会総会、第二部が恩師

紹介、第三部が懇親会でした。

第一部では、伊藤哲朗東京修猷会会長、津田純嗣同窓会会長、中神智文館長からご挨拶をいただき、原沢由美幹事長より報告および決議事項の提起が行われました。また、等健次新会長、鈴木俊彦副会長、志保澤隆幸副幹事長の就任がアナウンスされました。

第二部では、幹事学年である私たち九猷会メンバーがぜひお話を伺いたいとご招待した吉永高広先生にご登壇いただきました。先生のご希望もあり、今回は講演形式ではなくインタビュ形式を採用しました。インタビュアー2名と吉永先生が壇上であり、幅広い話題で楽しく有意義な内容となったかと思いません。惜しむらくは、裏方で運営に従事していた九猷会メンバーが会場で直接吉永先生の講演を聴けなかった点です。九猷会内で録画を共有しましたが、その場の臨場感をデジタルデータで感じるのには難しかったかと思えます。

第三部の懇親会では、学年ごととの親交を深めると同時に、幅広い世代間での交流が生まれました。テーマ「九結」の具現化として、「世代を超えておもひでを語る」企画を実施し、昭和51年卒の安東泰隆さん、平成3年卒の花田由理子さんと平成17年卒の青木仁敬さん、平成9年卒の石黒陽子さんにご登壇いただきました。また、平成29年卒の下川甲嗣さんにはビデオメッセージでご参加いただきました。皆様それぞれ過去のエピソードや未来に向けた繋がりについてお話しくださり、たいへん有意義な企画となりました。

今回の会場である鳳凰の間は広く、テーブルおよび椅子の数

も十分に確保されており、参加者の皆様からは「同期と楽しい時間を過ごせた」「ゆつたりしていて良かった」「料理も十分にあった」とのご意見をいただきました。

一方で、コロナ禍を経て現在は日常を取り戻しつつありますが、総会運営には依然としてその影響が及んでいます。特にコストの高騰が一因です。会場費をはじめ様々な経費が増加しており、総会準備の過程で収支を試算した結果、従来の会費では賄いきれないことが判明しました。執行部と議論を重ね、総会の持続可能性を考慮して、会費の引き上げを決定しました。

また、当初600名の参加を見込んでおりましたが、最終的には100名以上足りませんでした。コロナ前は600名以上、多いときで700名超の方が参加されていた実績と比較し、動員に関する工夫がもっとあったのではないかと反省しております。

東京修猷会総会は46歳の年に幹事学年が回ってきましたが、ライフスタイルの変化により、幹事学年の負担軽減なども今後議論すべきテーマと考えています。

最後に、今回の総会が無事に開催できましたのも、支えてくださった同期の皆様、そして先輩・後輩を含むすべての館友の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

本年の東京修猷会総会は、天猷会（平成10年卒）が幹事学年を務め、令和7年6月13日（金）に開催予定です。すでに準備が進んでおり、様々な楽しい仕掛けが用意されているとのことです。

東京修猷会総会で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

GOGO集友―近畿修猷会総会報告―



幹事学年代表

野口 順平
GO猷会（平成5年生）

第49回近畿修猷会総会は、一昨年同様大阪難波にあるホテルモントレグラスミア大阪にて、11月16日（土）に開催いたしました。コロナ禍収束後から3回目のリアル開催となる今回は、先輩方の声かけなどのサポートを受け、一昨年を上回る182名にご参加いただきました。総会・懇親会には、御多忙にもかかわらず、修猷館高等学校副校長 井地誠様、修猷館同窓会副会長 西高辻信良様、東京修猷会副会長 鈴木俊彦様、中京修猷会幹事長 阿部野浩様、関西福中・福高同窓会会長 澤和彦様にお越しいただき、心より感謝いたします。

総会は、物故者黙祷から参加者全員による気合の入った館歌斉唱にてスタート。遠座俊明代表世話人の挨拶からご来賓の皆様のご紹介、来賓を代表して井地副校長と西高辻同窓会副会長から、各地のエピソードを交えたご挨拶をいただきました。遠座代表世話人による事業報告後には、今年50年を迎える近畿修猷会総会についても、先輩の方々から激励のメッセージをいただきました。最後の古希のお祝いでは、昭和48年を代表して永

末伸生先輩から、古希にまつわるユーモアあふれる川柳が紹介され、和やかな雰囲気の中、総会は閉会となりました。

総会終了後は、私たちの同級生である長 昭洋君（戸畑ころともの忘れクリニック院長）による『あれ、あなた名前なんだっけ？ もご愛嬌！』館友と笑って学ぶ、脳のアンチエイジング』をテーマにした記念講演を開催。全世界が抱える認知症という問題について、参加者の方々に上手に『いじり』ながら、わかりやすく解説してくれました。参加者の方々にも大変好評で、講演時に使用したスライド資料を共有してほしいという依頼もいただき、後日、近畿修猷会のHPに紹介しております。

記念講演の後は、待ちに待った懇親会。鈴木東京修猷会副会長と澤関西福中・福高同窓会会長から挨拶をいただき、松村泰夫相談役より乾杯のご発声をいただきました。昨年は先輩の方々から日本酒の寄付をいただき、乾杯後から大盛況。そんななか、近畿修猷会の特長である各クラブ活動報告がスタート。「音楽を楽しむ会」のリアルなコーラスから、「釣りクラブ」によるダイナミックな動画を合わせた発表、たくさんの画像とともにハイキングの活動を披露した「爽筑会」、メンバー全員が壇上に乗ってPRした「アートクラブ」、お揃いのTシャツと横断幕で登場した「ランニングサークル」、クオリティ高いパワーポイントの資料とともに発表した「でじたるしつとう会」、クラブの名前通りバイクの爆音映像とともに登場した「爆猷疾走会」、最後は、2024年から活動をスタートした

「飲食グルメクラブ」と各クラブ趣向を凝らした内容で、熱く活動内容を発表いただきました。

クラブ活動報告の後は、各世代からのPRタイム。今回は久しぶりに現役大学生も7人参加があり、代表して園田尚君が学生らしい活き活きとした挨拶をしてくれました。その後は、各エリアの総会PR。まずは、平成8年卒の平八会から今年の福岡での同窓会総会のPR、その後は平成10年卒の天猷会から今年の東京修猷会総会のPR。各世代キャラクターを活かしたPRとなり、近畿以外も活発な同窓会活動が行われているのを感じました。最後は、我々GO猷会から六星会へ、近畿修猷会の年度幹事の引継ぎです。六星会代表の高田雅章君は、山岳部の後輩でもあり、まさに山中で、同じ釜の飯を食べた仲間。50周年を盛り上げてくれると期待しています。

盛り上がった総会も、「彼の群小」の斉唱と福岡から駆けつけてくれた元応援部の能見信二君がエールで締められました。以上で、第49回近畿修猷会総会は、無事に会を開催することができました。遠方よりご参加いただいた来賓の方々や、一年間温かくサポートいただいた遠座代表世話人をはじめとする各世話人の皆様、イベントや新聞発送作業の際に励ましてくれた先輩方々のご協力なしでは、総会を運営することはできなかったと思います。あらためてお礼を申し上げます。最後に、福岡や東京から総会に駆けつけてくれた35人の同級生や二年以上一緒に運営に携わってくれた近畿のGO猷会のメンバー、本当にありがとうございます！GO猷会のテーマである「GOOGO集友」を体

現できた総会になったと思います。

2025年の近畿修猷会総会は、記念すべき50回目の開催となります。今後とも近畿修猷会へのご支援をよろしくお願いいたします。



く支部だよりく

東京修猷会

東京修猷会で最も歴史がある活動の一つである二木会について今年もご紹介します。

毎月第2木曜日に開催し来年700回を迎えます。会場として永きにわたり利用してきた学士会館の全館改修により、今年からホテルグランドヒル市ヶ谷で開催します。

会場をお間違いないようお願いしてください。

昨年の講演内容です。(肩書、所属は講演時のもの)

1月「宇宙から見た地上の姿」衛星画像をより身近な情報ソースに」

平成元年卒 上田浩史さん／日本スペースイメージング(株) 代表取締役社長

2月「永遠の隣国、中国とどう付き合うか」『習近平の中国』の現況とこれから」

昭和40年卒 宮本雄二さん／元駐中国大使、宮本アジア研究所代表

3月「DXが変える災害対策」防災DXから災害医療DXまで」

平成10年卒 福島直央さん／ファストドクター(株)

執行役員

4月「人道の実現」赤十字の理念と活動」

昭和53年卒 鈴木俊彦さん／日本赤十字社副社長、元厚生労働事務次官

5月「私の『役人道』」人生を振り返る」ふるさと納税などのエピソードから」

昭和52年卒 平嶋彰英さん／元総務省自治税務局長、立教大学経済学部経済研究所研究員

7月「猷を修むと名に負うからには」日本漢文学から見た修猷館」

平成8年卒 合山林太郎さん／慶應義塾大学教授
サロン・ド・修猷 「ピアノ・オペラ」伝統の調べで心をつなぐ」

平成8年卒 巨瀬 励起さん／ピアニスト、平成21年卒 吉田明未さん／ソプラノ歌手

※土曜午後に家族や友人も参加できる会として開催
10月「長生き時代の悩みに寄り添う雑誌『婦人公論』」に見る『人生後半を楽しむ、心豊かに生きるヒント』

平成3年卒 三浦愛佳さん／「婦人公論」編集長

11月「修猷での教えが日本医師会長の道を作った」日本の医療の素晴らしさと今後」

昭和38年卒 横倉義武さん／元日本医師会長・世界医師会長 現日本医師会名誉会長

副幹事長 高木 信明(昭和60年卒)

近畿修猷会

今年度の近畿修猷会は、平成5年卒GO猷会が幹事学年を担当させていただきました。年度テーマを「新しく・おもしろい一年に！ GOGO集友」に設定し、1月の新年会から春・秋の新聞発行にイベント、ゴルフコンペ、総会と活動を行いました。

春の新聞発行では、東京・新橋で串カツ屋を経営し、店内をリトル西新化している同級生を紹介。秋は、特集テーマを「関西で見つけた故郷・福岡の味」として、大阪で味わえるもつ鍋店などの情報提供を行いました。

イベントも春・秋の2回開催。6月の春イベントでは、前日まで台風の影響が心配されましたが、当日は、心地よい潮風を感じながら音楽とフルコースの食事を楽しめる神戸ランチクルーズを開催。9月には、京都で和菓子作り体験とホテル日航プリンセス京都での和洋折衷ランチを満喫する秋イベントで、館友の方々の交流を深めました。

秋のゴルフコンペは、よみうりゴルフウエストコースにて、6組22人で開催。こちらも快晴に恵まれ、今年の屋外イベントはすべて晴れ。これも会員の皆さんの日頃の行いの賜物かな？ と思っております。

今年度の活動の集大成は、11月16日（土）にホテルモントレグラスミア大阪で開催した近畿修猷会総会・懇親会でした。昨

年は、一昨年を上回る182名が参加。来賓の方の挨拶から基調講演、各クラブ活動の発表と盛況のうちに終了となりました。一年間活動をサポートいただいた世話人会や先輩の方々には、あらためて感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。

GO猷会 野口 順平（平成5年卒）

中京修猷会

中京修猷会は総会と忘年会の二大行事を軸に、年2回程度の行楽イベント開催、及び会報「猷交」を年2回発行しています。2024年は5月11日の「山登り」イベントからスタート。日本三大山城の一つ岐阜県の岩村城を館友のお子様を含め9名で登りました。石垣、石段の立派さに感動し、当時の築城技術に思いを馳せた楽しい一日でした。

次は6月1日に総会を開催。ご来賓、福岡から有志と平八会（平成8年卒）を含め42名の参加。議事の前に講演会を開催。平成25年卒で大阪在住の浦越有希さんを講師にお招きし、ホームレス状態の人たちへの支援活動について講演頂きました。議事後は懇親会で、世代を超えた館友の皆で会話が弾みました。秋は10月27日に「有松めぐり・絞り体験」を10名の参加で実施。有松は桶狭間の古戦場近くにあり、伝統工芸「有松絞り」で有名です。そこで実際に絞り体験を楽しみました。絞りの技法は

シンブルなものから複雑なものまでたくさんあり、作り手の性格が作品によく表れるから面白いものです。体験後は昔ながらの古い町並みを散策しました。

そして11月30日、忘年会を開催。福岡の平八会、東京の天猷会（平成10年卒）を含め35名のご参加。アルパ&パークションのミニコンサートと懇親会を開催。さらびやかな音色と和氣あいあいとした時空で癒され、元気を頂きました。

平成卒の参加者も徐々に増え、若い館友の今後の活躍が期待されます。これからも「気さくで、アットホームな中京修猷会」に来て良かったと言って頂けるよう、励んで参ります。皆様のご支援、ご指導をよろしく願います。

幹事長 阿部野 浩（昭和55年卒）

長崎修猷会

長崎修猷会は、第49回総会を11月23日（土）にご来賓の大塚和広教頭、上田英友常任幹事長（昭和55年卒）をお迎えし、令和7年度同窓会総会幹事「平八会」の皆さん他を含む総勢33名で開催しました。

総会恒例の卓話は、長崎修猷会会員で長崎大病院血液内科助教の田口正剛さん（平成12年卒）にお願いしました。

演題は、『修猷魂と生きる〜米國留学で感じた日本人としての誇り〜』

医師11年目に、世界トップレベルで研究者として勝負したいと米國留学を決意。折しもコロナ禍の時期と重なって多くの不自由や困難がある中、米國と日本の違いを多方面で感じながら「人の優しさ・感謝の気持ち」、「やればできる」、「日本人だからできること」がある事を学んだとのこと。そして、日本人に求められる「努力・自信」、「夢・希望」、「情熱」、その精神がまさに館歌の一節にこめられている、との結びでした。一同大いに頷くことしきりの卓話となりました。

その後、中牟田真一会長（昭和41年卒）、大塚和広教頭、上田英友幹事長からご挨拶と母校の近況報告、大熊稔幸幹事長（昭和50年卒）の経過報告の後、参加者全員で記念撮影し、総会は終了。

引き続きの懇親会は、坂井真知子さん（昭和44年卒）に乾杯のご発声を頂き開宴。

平八会の皆さんから令和7年度総会と記念グッズのご紹介、長崎修猷会最年長の西醇夫さん（昭和22年卒）のアカペラ熱唱、恒例の福引抽選会、最後は西さんと矢野右人さん（昭和30年卒）にご登壇頂いて全員で館歌斉唱、岡田裕正さん（昭和54年卒）の万歳三唱、鶴田修副会長（昭和44年卒）の閉会挨拶で、盛会のうちに閉会となりました。

今年は長崎修猷会も50回の記念総会を迎えます。会員一同、今後とも会を盛り上げて、館友の皆様の一層のご参加をお待ちしています。

宮下 武彦（昭和60年卒）
立石 修（昭和62年卒）

沖繩修猷会

第20回沖繩修猷会総会・懇親会を令和6年11月16日に那覇市にて開催いたしました。これまで通り、県内在住会員に加えて多くの県外会員の御参加を頂きました。同窓会本部からは、中本純徳事務局長（昭和61年卒）、修猷館高校からは、中神智文館長の御参加をいただきました。同窓会総会幹事学年の平八会（平成8年卒）からは、事務局長の平田将彦氏、副実行委員長の堀田（江口）浩子氏、渉外部会長の佐藤千尋氏、沖繩在住組の内山知洋氏、田中貴光氏に御参加頂き、会を大いに盛り上げて頂きました。昨年は、福山剛一郎氏（平成10年卒）も東京修猷会のPRのために御参加されました。御陰様で、小人数ながら暖かい南の島で熱い館友交流を持つことができました。本年度は、修猷館創立240周年と沖繩修猷会20周年が重なり、めでたい雰囲気の中、沖繩三線の演奏で館歌斉唱をして館友の絆を深めました。沖繩在住・非在住に関わりなく、「緩い」沖繩修猷会に御興味のある方、11月に沖繩旅行をご計画の方々は、是非ともご一報を下さい。一見さんも歓迎いたします。

副会長 新藤 直人（昭和60年卒）

中国四国修猷会

去る6月29日（土）17時より、オリエンタルホテル広島にて中国四国修猷会第5回総会を開催しました。当日は修猷館同窓会本部より津田純嗣会長・中本純徳事務局長、修猷館高校より中神智文館長のご来臨を賜りました。また今回は平八会のキャラバン隊の一員として参加された修猷館現役教員の眞鍋健治さんのご尽力により5名の広島大学生にご参加いただき、1961年（昭和36年）～2021年（令和3年）の卒業生37名が60年の時空を超えて懇親のひとときを過ごすことができました。第6回総会は以下の通り開催します。

日時：2025年（令和7年）6月21日（土）

17時30分～20時30分

場所：メルパルク広島（広島市中区基町6-36）

今回は時間の関係で懇親の時間が不足していた事の反省に鑑み、十分な時間を確保しましたので、中国四国エリア外の方も積極的にご参加いただきますようお願いいたします。

河野 浩（昭和46年卒）

宮崎修猷会

令和5年度の年次総会および懇親会は令和6年1月27日(土)に開催されました。一昨年に引き続きの開催となり、日常を取り戻した実感がわきました。来賓として、修猷館高等学校を代表して中神館長、同窓会本部より上田幹事長のご臨席を賜りました。また、令和6年度修猷館同窓会総会の幹事学年である「七猷会」からの2名のご参加をいただきました。

総会における活動報告に引き続き懇親会では、来賓の皆様にご挨拶をいただき、現役館友達の活躍や、同窓会の近況をお聴かせいただきました。会の中程では、「七猷会」のみなさまから令和6年度同窓会総会の開催案内をしていただきました。その後も和気藹々と懇親会は進行し、館歌斉唱をもって楽しい会も閉会となりました。ただ一昨年に引き続き、残念ながら参加人数は少なかつたこともあり、新規会員の獲得についてご相談させていただきました。今年度は新規会員の勧誘をすすめて、総会・懇親会に多くの館友に参加していただけるように努めたいと思います。

宮崎修猷会は小規模な会ですが、アットホームな雰囲気集まりです。宮崎へ転入される館友の方は、是非、宮崎修猷会へご参加ください。お待ち申し上げます。

事務長 光田 靖 (平成5年卒)

佐賀修猷会

7月24日水曜日に今年度の佐賀修猷会総会が開催できました。福岡からも中神智文館長先生、上田同窓会常任幹事長さんにご参加いただき、コロナ後の久しぶりの通常総会ということで、昭和32年卒の田崎敏昭大先輩から令和3年卒の佐賀大学医学部生の諸君など多士済々のメンバー36人ほどに参加していただき、賑やかに和やかに開催することができました。昭和36年卒の十時忠秀佐賀大学名誉教授・佐賀県医療統括監による乾杯のご発声にて開始いたしました。やはりリアルの同窓会は華やいて、楽しいひと時を味わうことができました。館長先生には、現在の修猷生が勉学に加えて、スポーツにまで大活躍だと嬉しいご報告をいただき、また、まだ新しいと錯覚しておりました20年を経過した母校改築のお話を聞き、時代は変われど修猷館さらに栄光あれと、今一度心に刻みました。

同学年の横並びの同窓会とはまた違った、同じ母校の絆で結ばれた人材の方々との語らいは奥深く、隣県である佐賀で活躍している200名以上の母校愛を感じることで温かい同窓会でした。

会長 駒井 英基 (昭和49年卒)

大分修猷会

令和6年2月17日に大分センチュリーホテルにて第39回大分修猷会総会が開催されました。中神館長、津田同窓会会長、上田同窓会常任幹事長を来賓に迎え、福岡からは4名が参加して14名で執り行いました。

大分修猷会では恒例の1分スピーチが有ります。若い者から自由に発言して、毎年色んな話題になるのですが、本年度は大分の食の話題が続きました。

出張で東京や福岡など都心での会食が多い方は、魚は大分で食べる方が断然安くて美味しいと話すと、釣りをする人から、食べている餌が違うから、格段に美味しいと説明が入ります。

食べに行くならフグが良いと勧める人が多くて、来賓の方々は大分で食べるフグの魅力を力説していました。

それと、忘れてならないのが大分県日出町の「城下かれい」です。海底から清水が湧き出し、汽水域で育ったマコガレイは泥臭さがなく味は淡泊かつ上品です。江戸時代には幕府への献上品とされていました。

第40回大分修猷会総会は令和7年2月15日に開催します。県外の方の参加は大歓迎です。大分の食文化を味わう旅の途中でもご参加ください。

幹事 布村 知丈（平成元年卒）

鹿児島修猷会

令和六年二月三日（土）に令和五年度鹿児島修猷会総会・懇親会をくわはら館（ソラリア西鉄ホテル鹿児島）にて四年ぶりに開催いたしました。

同窓会役員から上田英友常任幹事長（昭和55年卒）と中神智文館長・名誉会長、さらに令和六年度同窓会総会の幹事学年である七猷会（平成7年卒）から四名にご参加いただき、合計二十名にて開催いたしました。

鹿児島修猷会の福田健夫会長（昭和28年卒）のご挨拶から始まり、上田常任幹事長からの同窓会の近況や菁莪発行のご紹介と支部への激励、中神館長からは学校行事での生徒の躍動、七猷会からは同窓会総会への強い意気込みをお話いただきました。懇親会では七猷会による前売りチケットと記念グッズの販売が熱心に行われ、後半には鹿児島修猷会の全員に近況をお話しいただき、最後は後藤健輔氏（平成2年卒）の音頭での館歌斉唱と写真撮影の後、福岡からのお土産を皆様にお持ち帰りいただきました。

久々の開催で十分にはお集まりいただけませんでした。令和六年度の鹿児島修猷会総会・懇親会は令和七年二月一日（土）、令和七年度は令和八年二月七日（土）に開催を予定しております。転勤や在学等で鹿児島にお住まいの際にはお気軽にご連絡をお願いいたします。

三好 宣彰（昭和55年卒）

東北修猷会

第12回総会を2024年11月30日に行いました。ご来賓の神智文館長先生、上田英友常任幹事長においでいただき、平八会（平成8年卒同窓会総会キャラバン隊）、天猷会（平成10年卒東京修猷会幹事学年）の皆さんを含む24名で「伊達のいろり焼き蔵の庄」にて開催いたしました。蔵の庄は第1回修猷館高校東北研修旅行下見のため修猷館の先生方がおいでになった際、立ち上げ準備中の東北修猷会と懇親会を行ったところでした。

今回は東北在住の学生さん2名と、当日仙台にいらっしゃるとのことでご参加くださった方もあり、昭和41年卒から令和5年卒までの館友にお集まりいただきました。

冬の仙台の味、せり鍋をお楽しみいただけただけたのではないかと思います。お時間が短く、行き届かない点が多々ありましたことが反省点でしたので次回開催はもう少しゆつくりできるようにしたいと思います。今年の開催予定は東北修猷会HPとFacebookでお知らせいたします。東北在住の方のみならず、仙台に行ってみたいから参加するよという方も大歓迎です。今後ともよろしく願います。

工藤 砂織（昭和56年卒）





中京修猷会



大分修猷会



鹿児島修猷会



東北修猷会



中国四国修猷会



長崎修猷会



沖縄修猷会

周年行事

卒寿の学年同窓会



石井 國 義

(昭和28年卒)

この同窓会も今回が最後ということと令和六年十月三日に、昭和二十八年三月卒業生の学年同窓会を開催した。我々はこの学年同窓会を猷友会と命名していた。記録によると所々でとんだ年もあるがほぼ毎年開催している。

同窓生は昭和九年（一九三四年）から十年（一九三五年）生まれが多数であり、本会開催日を基準にして言う年齢は八十九才から九十才の卒寿となる。

この日はすがすがしい秋晴れであった。平成二十七年発行の同窓会名簿を頼りに約百余名に案内した所、出席者は付き添い六名（女性）を含め男性十八名、女性十五名、合計三十九名であった。参加者は福岡市や北九州在住者が多数であったが遠く東京や関西在住者の参加もあった。

そばを通る市道から時々ながめていた校舎の外観は、昔と

あまり変わりが無いように見えていたが、今回中に入ってみると、我々が学んでいた校舎は一変してすべて建て替わっており、エレベータまで設備されていたのには驚きであった。運動場は、昔と変わらず広々としていたが、赤土に覆われていた茶褐色はすべて人工芝の緑に変わっていたのが印象的であった。

開始に先立ち物故者に黙祷を捧げた後、手配していた室見川河畔の料亭とり市の弁当を摂りながら、ビールやその他飲み物を片手に一同歓談した。

途中、吉村恭幸君をはじめ広幸信義君、松尾守君、松栄孝昌君、香月隆君、吉見健三君、波多江健一君、上野迪子さん、その他多数からの卓話があり大賑わいであった。正午から始めて三時に散会、三時間の楽しい時を過ごした。

最後の学年同窓会なので付添者を除いて出席者全員の氏名を再掲しておく。敬称省略（あいうえお順）。



石井國義、江上佐登司、奥田滋郎、香月隆、岸邦太郎、古林友秀、松栄孝昌、立石傳治、田中功、西英雄、波多江健一、広幸信義、帆足新一郎、松尾守、三輪喬一郎、武藤仁、吉見健三、吉村恭幸、計十八名
上野迪子、尾本（田上）礼子、城島（勝見）敦子、須崎（藤）洋子、武末（森）紀久子、徳光（小島）哲子、富田（中村）愛子、中根（讃井）和子、成吉（梅野）とみ枝、西山（山川）孝子、馬頭（高島）和子、宮下（広瀬）礼子、森（東田）安子、吉安蓉子、米倉（溜）啓子、計十五名

終わりにはなつたが今回の同窓会を計画立案から手配実行まで、すべてを担当した同級生の三輪喬一郎君、武末紀久子さんに同級生一同を代表して感謝する次第である。

卒業50周年記念同窓会の報告

実行委員長

森 部 節 夫

（昭和45年卒）

昭和45年卒（しのごの会）は、2024年3月17日～18日に卒業50周年記念同窓会を開催しました。本来の卒業50周年の年は2020年でしたから、その年の10月に記念同窓会を予定し、「50年目の文化祭」と銘打って、コーラス、楽器演奏、作品展示などの参加者を募集しつつ準備を進めていました。ところが、2020年の2月頃から、新型コロナウイルスが急速に感染拡大したため、この年の実施は、一旦、無期限延期となりました。その後、2023年3月に至り、コロナがようやく収まったことで、各クラスの世話人が集まって50周年記念同窓会の実施へと再起動し始めました。再び、企画を立てるに当たって、学校見学と文化祭という2つのキーワードが結びつき、修猷館の文化祭の時期に学校見学を行って、現役修猷生の文化祭を見学し、夜はホテルで懇親会を行う企画がまとまっていきました。そこで、修猷館高校で文化祭が行われる2024年3月17日とその翌日の18日に卒業50周年記念同窓会を実行することになりました。

【文化祭見学】

2024年3月17日は、修猷館の現役の高校生諸君が実行し

ている文化祭の見学です。しのごの会メンバーは、それぞれ思い想いの興味にまかせて、文化祭の見学を楽しみました。中庭での書道パフォーマンス、バンドや展示等：到底、全ては回り切れませんでした。が、情熱に溢れ、かつ才能豊かな現役の修猷生の姿をまぶしい想いで見て参りました。はつらつとした若いエネルギーを感じる文化祭見学でした。

【大懇親会】

夜は、ホテル日航福岡において、総勢145名の参加者が全国から集まり、なつかしい顔を合わせ、再会を喜び合いました。懇親会の中で、東京の等君や杉本君を中心として、東京・九州の有志が加わった21名のメンバー、その名も、「しのごのボーイズアンドガールズ」の皆さんにより素晴らしいコーラスが披露されました。延期する前に企画していた「50年目の文化祭」への想いを引き継ぎ、日頃からの練習の成果を発揮した素晴らしいコーラスでした。懇親会では、久しぶりに会う仲間たちで幾重にも輪ができ、話の花が咲いて、アツという間に時間が過ぎてしまいました。締めめの館歌は、元応援団の木村君、古賀君、西村君の指揮の下、高らかに歌い上げました。

【太宰府巡りツアー】

3月18日は、54名の参加で太宰府巡りツアーを行いました。晴天に恵まれ、貸し切りバスで、天神から一路太宰府に向かいました。最初に着いた水城跡では、しのごの会メンバーの梅崎満里さんから、九州国立博物館ボランティアとして太宰府の歴史を学んだ感動を皆に伝えるべく、熱のこもった解説をしてい

ただきました。その後は、太宰府史跡解説員ボランティアグループの方々により、大宰府政庁跡、坂本神社の案内と説明をしていただきました。そして、賑やかな参道を通って、太宰府天満宮に赴き、ユニークな仮殿を拝観しながら、権禰宜の味酒様から、太宰府天満宮の解説をしていただき、仮殿にて、健康祈願を受けました。その後、茶店にて少しアルコールを交えて和やかに昼食をとりました。続いて、竈門神社に参拝して当日の行程は無事完了、再びバスに乗り込み、名残りを惜しみつつ、帰路に向かうこととなりました。こうして、最初の企画を立てた2019年から中断期間を経て2024年まで、待ちに待った卒業50周年記念同窓会でした。開催に至るまで期間を要し、苦労が多かっただけに喜びもひとしおでした。



50年の時空を超えて

山口 文 男

(昭和48年卒)

僕は、令和6年3月14日に、同窓会を開催しました。

「卒業50周年」をやるうとしたら、コロナ禍で延期になりました。「古希の祝」をやるには、「少し時期が早いかな?」。そこで、宴会好きの自称実行委員の僕は、一緒に「まとめやろう!」と半年前から、準備を開始しました。

これまで、しつとーや会の節目では、「何か」をやってきました。同窓会総会の幹事だったのは、卒業30周年の22年前です。ニューオータニの会場で、48歳の初老しつとーやが、余興で見事な五段ピラミッドを披露しました。大歓声に包まれましたが、出席された方、覚えてますか?

還暦祝では、約120名の仲間が集い、太宰府参拝と梅の記念植樹をしました。

これまで旅行や色々なイベントをやってきました。コロナ禍で、しばらく話もできなかったのですが、今回は、シンブルに語り合う同窓会にしました。サブタイトルは、「いっぱい語ろう ゆっくり呑もう しつとーや」です。

でも、宴会だけでは物足りないのです、修猷館の散策から開始しました。

中庭の立派な常設スタンドで集合写真を撮ってから、人工芝

グラウンドを素足で歩いて、感触を楽しみました。誰かが「俺達ん時は、砂埃で運動会とか大変やったバイ」と、妬みに近い羨望が聞こえました。

懇親会は、熊本章一実行委員長の開会挨拶、千葉から参加の大谷幸生君の乾杯の音頭で、スタートしました。最初に、同窓会常任幹事の黒木篤君から、修猷館の近況報告がありました。新校舎の建設会社の社長さんだけあって、新しい校舎にある六光星の徽章は、今は二つ存在して、どちらが元々ある徽章なのか、「修猷館あるある問題」のネタバラシがありました。東を向いているのが、答えだそうです。それから、東京しつとーや会の中川淳雄君、近畿しつとーや会の永末伸生君から、それぞれ近況報告がありました。博多を離れたしつとーやの仲間達の近況を聞いて、ほっこりした気持ちになりました。

懇親会は、一部二部と合計四時間にわたって120名が、いっぱい語り合いました。締めは、金堀雄二君の「博多手一本」と、皆で「祝うた〜」を絶叫して、最後まで盛り上がり、多くの仲間が三次会へ流れていったようです。

今回の同窓会に参加できなかった仲間の為に、記録動画を作って、後日配信しました。当日の記録に加えて、過去のイベントの写真などを織り交ぜました。

動画のBGMには、還暦の年から毎年開催している「しつとーや音楽会」に参加の皆さんの演奏を使って、映像と合わせて楽しんでもらいました。

現在の写真では、誰か分からない方もいると思います、卒業アル

バムの写真を、隣に並べて50年の変化を比べてもらいました。後で思いましたが、宴会で配った名札にも写真を貼っていただければ、当日の「あんな誰？」は無かったかもしれません。

動画配信は、参加出来なかった仲間も含め、多くの方に視聴してもらいました。

僕もこの90分の動画を見て、しっとーやの高校時代を振り返ってみました。

この西新で出会って三年間、ワイワイ騒いで、それぞれの人生を歩んで、久しぶりに会えば、いつも、当時の話に花が咲いて、笑って、泣いて、また、笑って。

楽しい事ばかりじゃ無かったかもしれないけど、素晴らしい修猷館時代でした。

昔は無かった人工芝や、素晴らしい校舎を散策して、「今の高校生は恵まれているな」と思いました。でも、彼らを羨む気持ちはありません。

なぜなら、家族と同じくらいかけがえのない大切な仲間に恵まれて、人生を歩んでこられたからです。

あの頃持っていた「明日の数」は、もちろん減ってしまったけれど、残りの「明日の数」は、有意義に使い、充実した日々にしたと思っています。

次回は、卒業55周年か喜寿か分かりませんが、次も、大好きな仲間と再会したいと願っています。それでは、動画の最後のメッセージをご紹介します、今回の報告を終わります。

「次回の同窓会に参加するためにも 健康で元気に生きていきましょう！ 決して 勝手に 先に逝ってはなりません！」



清秋最可人

「4649会修猷館卒業50周年&

古稀記念懇親会・日光旅行」



山本 周
(昭和49年生)

修猷館高校に昭和46年に入学もしくは49年に卒業した仲間たちによる「4649(よろしく)会」は、2024年に修猷館卒業50周年を迎えたのにあたり、あわせて、間もなく古稀を迎えるのを記念して、全国にいる同期生に声をかけ、懇親会と旅行会を行った。

9月28日、第一部は懇親会。約80人が一堂に会した。会場は、東京・墨田区にある、屋上の金色のオブジェが特徴的なビルにあるビアホール。

物故者に黙祷をささげた後、当日くじ引きで選ばれた同級生が乾杯の音頭を取った。いきなりの指名にもかかわらず、すぐに会場を盛り上げる挨拶は修猷生の面目躍如だ。

最初に座ったテーブルもくじで指定され、高校時代は接点が多かった仲間とも、最初は少し戸惑いながら、しかしすぐに打ち解けてざっくばらんに昔話に花を咲かせた。

高校3年次のクラスごとに集まって代表が近況報告したあと、記念撮影。3年次に男子クラスだった面々は男女クラスの記念撮影を羨ましげに見ていた。

この大宴会に続いて浅草駅近くの居酒屋を借り切って二次会。一次会の会場では吹き抜けのため他のお客さんに遠慮して歌えなかった館歌を声を張り上げて斉唱した。

翌日からは屋外でのイベント。

9月29日は、二手に分かれ、浅草めぐり組は水上バスで隅田川から見た風景を楽しんだり、浅草名物の「電気ブラン」を飲むなどして下町風情を満喫した。もう一組は日光に先回り。江戸の街並みを再現したテーマパーク日光江戸村を訪れ、新選組やかぶき者などに変身してタイムトリップした。

このあと日光・鬼怒川温泉にあるホテルで合流して、約30人で宴会。

9月30日は日光のパワースポットめぐり。バス内で同級生が若いころに携わった有料道路建設の苦労話を聞きながら、まず明智平展望台へ。気温は2週間前の東京の最高気温より20度も低い15度。清々しかつたが、あいにくの霧で中禅寺湖などの絶景は見えず。このあと日本の三大名瀑のひとつ華厳の滝へ。エレベーターで100メートル降りたところにある観瀑台から見えた豪快な姿にパワーをもらった。

この日の最後は日光東照宮。ガイドさんの案内で陽明門や「三猿」や「眠り猫」、そして「鳴龍」などの彫刻や天井画などを見て回った。「鳴龍」は湿度が高めだったおかげで「キーン」

という甲高い鳴き声がふだんより良く響いていたそうだ。

3日目の10月1日の旅行には13人が参加。まずは鬼怒川ライン下り。約30分かけて6キロを下った。快晴に恵まれ、汗ばむくらいだった。波が立つ箇所では飛沫がかららないように側面のビニールシートを全員で持ち上げたのは一興だった。

このあと杉並木公園へ。日光杉並木の保護と地域文化を伝承するために整備されたとのことだが、世界有数の長さを誇る杉並木に、日光の道路建設に携わった同級生によると、管理を任されたむかしの農民は苦役を強いられたとのこと。

日光観光の最後は上下二段からなる霧降の滝。華厳の滝に比べ優しく上品な印象だった。

今回のイベントは2023年7月から準備を始め、打ち合わせは数次に及んだ。打ち合わせのたびに仙台から駆けつけて企画運営をリードしてくれた井手富士雄くんはじめ実行委員の皆さんに謝意を表したい。

最後に。表題の「清秋最可人」は、宿泊先の鬼怒川温泉のホテルの宴会場にかかっていた額にあった中国・南宋の詩人の詩の一節。「せいしゅうもつともひとにかなり」と読むそうだ。日光の秋の清々しさに洗われた我々の心情を言い表していた。



Respect + Reset at 60

「いつちよやる会還暦同窓会」



矢島 啓子

(昭和58年卒)

Our life together is so precious together

We have grown...

シモン・レノンが (Just Like) Starting Over の中で I know the time flies so quickly と歌ったのは44年前。私達はその時、独特な油の香り漂う教室で共に学ぶ修猷館高校一年生でした。

そして本当に飛ぶように月日が流れて私達は還暦の年を迎え、同窓会の場で共にその曲を口々に歌いました。

昭和58年に卒業した私達は、個性派揃いのタレント揃い。私達は実行委員長を拝命して何をしようかとドキドキ。でも、これだけは心に決めていました。

「欠席している人も、出席している人も、みんなが参加している同窓会」

一人ひとり、この還暦の年を迎えるまで、それぞれの人生をそれぞれの歩幅であるいてきたのです。お互いをリスペクトしあい、これからもそうあり続けられる機会にしたい、と。

そして、藤島さんをはじめ学年幹事の皆さん、佐伯君、陸上部メンバーに助けってもらいながら準備を進め、ソラリアホテルでの同窓会当日を迎えました。集える健児150人。

〈1. 高良君にお願いして「同窓会DX」〉

事前に還暦同窓会のWEBサイトを作り、当日のプログラムをシェア。出席する人も欠席する人も皆で共有できる場に。欠席する人にはメッセージを送ってもらい、サイトに掲載。修猷への思いを語る人、会その時間は家族と過ごしながら皆を思っている、と綴ってくれた人。メッセージを受け取る度に心が温まりました。このサイトには、後日当日の様子の動画を貼る予定。それから当日の写真もGoogleフォトで皆が追加・閲覧できるようにしまして、現在壮大なGoogleフォト共有アルバムになりました。そうして、当日の企画はというと...

〈2. 修猷58還暦オールスターズ爆誕〉

皆様も文化祭でバンドを組んで歌われませんでしたか？私達もそう。そして今も音楽に携わっている人達がいます。私も素人ながらその一人。さだ幸坂丸君のもと、そんなメンバーでバンドを組み、懐かしい曲を演奏しました。クラシック、高中正義、カシオペア、ビートルズ、ストーンズ、イーグルスにベイシテイローラーズ。そして、バンドマスター徳永君のボーカルに橋本君が豊かな音色のギターを合わせてくれたジョンの Starting Over に皆の心は震えました。

〈3. あの運動会を思い出そう〉

林君が編集してくれた当時の動画を見ながら、大浦元総務の

もと四ブロックのブロック長でバネルデイスカッション。最後はブロック長で三ピラ！今でも、七ピラが立った動画を見ると当時の感動が。

〈4. 大人のための熟女ラウンジ〉

これは（笑）ママをさせて頂きました。ラウンジ嬢の皆様、流しのヒロボー、荻原君・津出君そして太客の皆様、心からの愛を。

本当は政治家座談会も企画にあつたのですが、選挙と重なり中止。残念。でもその日は夜遅くまで皆心ゆくまで語り合い、壮大なGoogleフォトにはその日の笑顔があふれています。

さて、そんな私達の同窓会は一日で終わるわけがなく。

〈5. 翌日は大人の遠足、コスモスの美しい能古島へ〉

翌朝早くに、BBQ隊長の鶴田君からLINE「強風のため船が欠航！」！吹っ飛ぶ二日酔い。ともかくにも渡船場に行こう、と向かいました。そして：やはり年とともに早く目が覚めてしまう私達。そこには待ち合わせよりも早く集まった多くの同級生の姿が。中には前日に島に渡れず、還暦にしてネカフェ難民になったという人も。まあ、そうこうしているうちに風も収まり出航。能古島では某Y君ご所有地で、中島君のスパニッシュギターを鑑賞、爪弾かれた音が秋風に乗ってロマンティックがとまらない。

その後、私達一行はアイランドパークに向かい、BBQを存分に楽しめました。ここでは国内外の飲食業界で大活躍している同級生が美味この上ない石垣牛を提供してくれて、頼は

落ちっぱなし。ここでクラシックの荒木君武田君が郷愁誘うクラシックメドレーを演奏。郷愁つて、ここ福岡が皆の故郷なんです。

一点の曇りもなく、ただただ、ただただ、笑って、話して、歌って、楽しかった。別れるときには、それぞれの健康と幸せと、また次に会える日が早く来るのを願って、手を振りあつたのでした。「人生百年時代」という言葉は、自分には保険のCMの言葉のようだと敬遠していたけれど、本当にそうなのであれば、また何回も皆でStarting Overを演奏して一緒に歌いたい。いっちょやる会の皆さん、たくさんの幸せな瞬間をありがとうございました。



学年一口連絡アンケートナ

【昭和29年卒】 六八会の皆さんお元気ですか？

昨年の六八会は、六月21名（内女性9名）、十月19名（内女性4名）でした。

今年は昭和百年、多くが卒寿となります。今年は六月十二日（木）、十月九日（木）に西鉄グランドホテル1Fで11時30分です。精進して白寿を目指しましょう。

昨年一年に石川、林宏、柴田、村越、鶴野、久原、土岐（田町）、小山（上野）が逝きました。黙祷

前田 和久 岡村 祥三

【昭和32年卒】 三二会福岡は毎月第三木曜日に市心で夕食会を続けています。参加者は14～18名（うち女性3～5名）。車イスの安西豊治君（六組）と付き添いの妻君はほぼ皆勤。近況を語り合い、母校のニュースに盛り上がります。昨年十一月には木造小型ヨット製作者・村上光一君（五組）が手造りの十分の一モデルを修猷館に寄贈しました。在福、帰省の皆さん、ご一報を。

武藤 信

【昭和40年卒】 しっかりと会の皆さんお元気ですか！

私共も今年で卒業60周年を迎えます。

そこで、5月27日（火曜日）に母校見学を含む記念行事を開催いたします。詳細は4月初旬にご案内いたします。多数の方の参加を期待しております。

尚、周年記念行事はこれをもって有終としますが、毎年の総会・懇親会は期限をつけずに出来る限り続けることといたします。

しっかりと会 幹事一同

【昭和41年卒】 よいよい会の皆様へ

2025年よいよい会総会のお知らせ。

日時…令和7年6月5日木曜日18時より

会場…昨年と同じ和食の灯明殿（71014305）

会費…8000円

総会では次年2026年の卒業60周年記念同窓会について話し合います。今出ている案はパーティーと同会場での2次会、日帰り小旅行・温泉・美味しい魚（二日市、浜崎、佐賀、唐津、古湯など）、プロの写真家による撮影、記念品、よいよい会ホームページの写真の整理などです。全国の会員が集う会にしたいと考えています。事前にアイデアをください。

渡邊 章

【昭和45年卒】 2020年10月に開催を予定していた卒業50周年行事を、昨年ホテル日航福岡で無事に開催することができました。様々なイベントにご協力いただいた世話人の皆様、ご参加いただいた総勢145名の45会の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

今後もMLを通じて新年会や様々な集まりなどのご案内をいたしますので是非ご参加いただければと思います。本年もよろしくお願いたします。

森下 七百枝

【昭和46年卒】 よかろう会のみなさま、お元気でですか？
令和5年10月15日(日)〜16日(月)によかろう会52周年同窓会を太宰府で開催しました。総勢70名が集まり旧交を温めました。

本年もクラス幹事会、よかろう会同窓会を予定しています。メーリングリストに登録されていない方はアドレスをお知らせください。連絡先は「学年連絡先」をご覧ください。

副島

【昭和49年卒】 九月二十八日の懇親会から十月一日までの「卒業五十周年&古稀記念懇親会・日光旅行」は大盛況で幕を閉じ、その様子は写真や動画で配信され旅行に行けなかった者も大いに楽しみました。近年、プロ並みの趣味を持つ面々が企画を練り、その分野の探訪、観光に誘い出してくれます。歴史の里、自然の中、芸術、とその分野は様々ですが、誘う側も誘われる側も幸せな古希の時代を送っています。

常任幹事 小柳 有美

【昭和52年卒】 ごじゅくに会(昭和52年卒)のみなさまへのご連絡です。

毎年恒例の新年会を例年通り開催予定です。万障繰り合わせの上ご参加ください。また、お正月は参加が難しい方のために令和6年8月に開催されました「ごじゅくに会暑氣払い」も恒例行事と致したく思っております。

詳細は、ごじゅくに会のメールにてご連絡させていただきます。ご参加をお待ちしております。

井上 健次郎

【昭和54年卒】 学年のお知らせは、合志会サイト、メーリングリスト、Facebook、いずれかをご覧ください。メールの不達が増えています、連絡先変更を都度お願いします。

合志会サイト (<http://54kaisai.jp/>) 公開部分には修猷館関連情報を掲載。他学年のみなさまからの情報もお待ちしております。

菊池 政道

【昭和55年卒】 五五会の皆さま、お元気でですか。昭和55年卒の我々は、新型コロナウイルスのため、還暦の年に還暦同窓会が開催できてません。今年辺り、数年遅れの還暦同窓会を企画したいと思っています。詳細はメーリングリストで案内しますので、未登録の方やアドレス変更の方は、上田英友まで(別ページ)「学年連絡先」参照、お知らせください。

上田 英友

【昭和56年卒】 皆さん、お変わりありませんか？すぐろく会では、住所など個人情報の変更は、それぞれ同窓会事務局に連絡して頂くようお願いしています。色々と変化がある一方で、物忘れも進む年代です。うっかり：がないよう、こまめな連絡をお願いします！ 年2回の学年同窓会、春と秋のゴルフ、オトナの遠足(?) など仲間と一緒に「黄金の15年」を楽しんでいきましよう！

常任幹事 佐伯 拓史

【昭和57年卒】 剛質会の皆さん、元気にお過ごしですか？毎年、福岡にて、年末12月30日にゴルフ会、年始の1月2日に学年同窓会を開催しています。詳細は、都度同級生グループLINEやメールでお知らせしています。帰省の際は、ぜひご参加ください。

日頃、グループLINEで情報交換していますので、登録を希望される方は連絡ください。

常任幹事 田中 徹

【昭和58年卒】 昨年の還暦同窓会は150名以上が集まり、楽しい時間を過ごしました。翌日には『同窓会ロス』の声も出る程、よい思い出になりました。次は卒業50年記念の8年後に盛大に集まることを目標に、それまでは福岡、東京、各地で繋がっていきましょう。毎年5月の同窓会総会の後は『さだ幸』が恒例です。夏・冬に東京、福岡で同窓会を開催しています。「修猷58ML」「LINE」で案内しています。

弥吉 祐子

【昭和59年卒】 今年は還暦祝いの同窓会を開催いたします。現在、候補日として、令和7年10月11日、13日のうちのいずれか1日を予定しています。確定次第、早目にお知らせいたします。また元氣にお会いしましょう！

学年幹事 堀内 恭彦、堀 優子

【昭和60年卒】 メーリングリストとFacebookで猷馬会からのお知らせを配信しています。

メールが届いていない方はアドレスをお知らせ下さい。（学年連絡先参照）

常任幹事 中村 成克

【平成元年卒】 毎年1月2日とお盆前に学年で集まっています。また毎月1日「ついたち会@つるの家」開催しています。帰省の際はぜひ参加してください。

今泉 忠

【平成2年卒】 幹事学年を務め上げて数年、コロナ禍の余韻か、なかなか大勢で集う機会が減っている現状を少々寂しく感じています。しかし現役の時からのご縁があれだけの同窓会に結実したのですから、今後もまた新たな思い出を紡いでいけるはずです。

これからも卒猷会として集える機会を創り、発信していきますので、今後も繋がりが続けられるよう、住所変更の際は事務局の三戸・田中までご連絡下さい。そして都合がつく時は、同窓会でも花見でも、ふらっと顔を見せてくれることを期待しています。

常任幹事 三戸 宗一郎

【平成5年卒】 GO猷会のみなさま、昨年は、近畿修猷会お疲れ様でした。

学年としての幹事業務は終了しましたが、今後とも絆を深め、楽しい学年であり続けたいと思います。よろしくお願ひします。

常任幹事 能見 信二

【平成6年卒】 六星会のみなさま、令和7年は近畿修猷会総会の幹事です。近畿に集合お願いします！

党 智

【平成7年卒】 昨年の同窓会総会は、七猷会の皆さまのご尽力のおかげで無事に大役を務めることができました。

当日総会に参加、前日にキャリアセミナー講師を務めていただいた方々だけではなく、バックアップで準備を手伝っていただいた方々にも感謝申し上げます。

今後は、今回より深まった絆を大切に、皆で楽しく集まっていければと思います。

まずは、2026年の近畿修猷会の当番幹事に向けて盛り上げて行きましょう！

常任幹事 池下 智

【平成8年卒】 平成8年卒の皆様、今年の修猷館同窓会総会の幹事を務めるのは、平成8年卒の私たち平八会です。

高平実行委員長の下、一昨年の十月から準備に着手し、いよいよ総会まであと三か月となりました。当日の運営など、ご協力いただける方をまだまだ大募集中です。

総会のテーマは、「みんなに(こ)ろ(こ)修猷力(パワー)∞大」です。平八会のみんなで力を合わせて、総会に参加される全ての方が笑顔になるような素敵な会にしましょう！

※総会の詳細は裏表紙をご参照下さい。

常任幹事 平田 将彦

【平成9年卒】 2026年5月の大同窓会の当番学年として楽

しく準備を始めています。学年の皆さまのご協力なしには成り立ちませんので、是非実行委員会にご参加ください！ 遠方からもお手伝い可能です。毎年、年末年始の学年同窓会を開催しています。九猷会LINEグループで諸々の情報を共有しますので、まずはLINEグループにご参加をよろしく願います。

常任幹事 峰 雅紀

【平成10年卒】 こんにちは！ まめこと村上弘です！ とうとう僕らの学年も当番幹事という役目が回ってくる年齢になってきました！ まずは東京修猷会総会からです！ 6/13金曜にハイアットリージェンシー東京(西新宿)でお会いしましょう！

常任幹事 村上 弘

【平成11年卒】 平成11年卒はよせん会の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。毎年恒例の忘年会に加え、毎月11日の月例会をスタートして早1年、参加者は徐々に増えています。

Facebook、全体LINE/クラスLINE等で周知していますのでぜひともご参加ください！ まずは、2026年6月に迫る東京修猷会総会の準備を盛り上げていきましょう！

常任幹事 梅北 拓郎

【平成12年卒】 2000年卒のみんなお元気ですか？

少しずつ大同窓会の幹事年も近づいてきています。

年2回は集まる機会を作っていくので、またお会いしましょうー！

松尾 光泰

【平成15年卒】 H15年卒のみんな、こんにちは。

昨年は初の試みで、Zoom会をやってみました。

少しずつ大同窓会の幹事学年が近づいてきましたので、大同窓会ってどんなことするの？ 何したらいいの？ という漠然とした不安を解消しようという目的で、これまでの歴史や、次開催する学年の先輩たちの動きをシェアさせてもらいました。

30人も集まってくれて、嬉しかったです。

今年もゆるゆるとイベントやっていくので、気軽に参加してね！

常任幹事 森實 理恵

【平成16年卒】 平成16年卒では、同学年だけのオープンチャットや各クラスのLINEグループにて情報共有を行っています。

参加希望の方はご連絡ください。

常任幹事 3年2組 ラグビー部 イエロー 川寄 耕大

【平成19年卒】 六光星が私たち平成十九年卒の制服にきらめいてから、早くも十八年がたちました。『菁莪』に「一言」が掲載されることになり、背筋の伸びる思いです。私たちも同窓会の一員として新たに動き始める時が来ました。六光星をつけて西新を駆け抜けたその刹那は誰しも思い出すことでしょう。当時の思いを胸にして、確かな歩みを進めていきます。

菊池 秀策

「勧誘電話にご注意ください」

同窓会名簿を利用したとみられる勧誘電話の情報が寄せられています。

このような勧誘電話とは同窓会は一切関わりありませんのでご注意ください。

同窓会名簿は同窓生以外には販売しておりません。複製、転売は禁止です。

同窓生の皆さま、名簿の取り扱いにくれぐれもご注意ください。ようよろしくお願いいたします。

学校報告

創立記念行事

5月24日（金） 創立240周年記念式典および記念講演が行われた。

この創立記念行事は、天明4年（1784年）の創立から240年、長きにわたって受け継がれてきた本校の歴史を再確認し、未来へとつなぐ意義深い行事である。

本年度は式典に先立ち、創立240周年の節目の年であることを記念し、来賓の黒田家第17代 黒田裕大様・絢子様御夫妻、津田純嗣同窓会会長、その他関係各位のご臨席を賜り、本校生徒会役員も参加し、植樹式が行われた。

創立記念式典では、中神智文館長が、240年という長きにわたり「修猷館」という校名が続いてきたことは、黒田家のご支援をはじめ、多くの先人、同窓生、教職員の尽力のたまものであること、これから10年後250周年、60年後の300周年を迎えるにあたり、生徒諸君がどのようにに未来を切り開くか楽しみであるとして辞を述べた。さらに、来賓の方々よりご祝辞をいただいた。



創立記念講演「学問の勧め」

九州大学総長

石橋 達朗 氏

（昭和43年卒）

石橋氏は、まず、眼科医であった父親の影響を受け、医師を目指すようになったこと、修猷館での思い出、九州大学での学生生活についてユーモアを交えて述べられた。次に、九州大学医学部での眼科学の研究、眼という臓器のしくみや重要性、研究テーマである糖尿病網膜症・加齢黄斑変性について、そして恩師である田中健蔵教授や、留学先の南カリフォルニア大学で指導を受けたProf. Stephen J. Ryanとの出会いについて語られた。さらに、指定国立大学法人である九州大学の総長として「総合知で社会変革を牽引する大学」や「価値創造人材の育成」を指していること、そして、九州大学の概要や様々な優れた施設・設備の説明、高大連携の事業として「九州大学未来創成科学者育成プロジェクト（QFCISP）」、女子高校生を対象とした理工系研究インターンシップ制度「QURIESプログラム」の紹介をされた。また、「大学は長い歴史と伝統の中で築かれ培われた知識の塊であり、その集積された『知』から学び、それを次の世代に伝え、新しい知見を生み出すことが大学の使命であり、大学で学ぶとは、自ら選択した学問を深め、体系的な知識にし、それを基に自分の考えを導き出し、発展さ

せ、形にすることである」と述べられた。最後に、「修猷館の
日々の中で、自らが志したい学問、自らを社会で役立てるため
の基礎となる学問を探し出してください」と語られ、ウォルト・
ディズニーマの「夢を抱くことが実現の第一歩である。(If you
can dream it, you can do it)」のメッセージで講演を締めくく
られた。

文化講演会

「ニューロテクノロジーの現在と未来」

大阪大学高等共創研究院教授

柳澤 琢史 氏

10月30日(水)文化講演会が行われた。本校の文化講演会は
毎年秋に、各界で活躍の著名人をお招きして、生徒の知的好
奇心を喚起する目的で開催されている。柳澤教授は大学で医療
と脳研究に携わる医師・研究者(M.D.P.h.D)である。はじめ
に、本年度ノーベル物理学賞を受賞した、プリンストン大
学のジョン・J・ホップフィールド(John J. Hopfield)氏とト
ロント大学のジェフリー・E・ヒントン(Geoffrey E. Hinton)
氏の研究成果が紹介され、「脳の仕組みを解明できるか」「脳

の仕組みがわかれば何ができるか」についてお話をいただいた。
柳澤教授は主に治療目的で、てんかんなどの脳外科治療を
受けている患者さんの協力を得て、人間の脳とコンピュータを
接続する技術「ブレインマシーンインターフェイス」(BMI)
の研究をされ、侵襲的な方法(外科手術を行い、脳内あるいは
脳の表面に電極を設置する手法)によって計測する脳波を使っ
たBMIを開発された。例えば身体の手が動かなくなる、
ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者さんが、脳で思い浮か
べるだけで自らの意思を伝えたり、ロボットを動かして外界と
関わることできたりする技術で、最近ではAIを用いること
でより低侵襲な方法でも実用的な脳波が読み取れるようになって
きた。講演の途中で、実際に2人の生徒に演壇に上がっても
らい、BMIを装着して簡単なコンピュータゲームを手を使
わずに「念じる」だけで動かす実験をした。画面に映し出され
た「ブロック崩しゲーム」の反射板が左右に動く会場は生徒
からは一斉に驚きの声が上がった。まさに、未来の医療やテク
ノロジーの最先端を目の当たりにする瞬間であった。今回の講
演内容を理解するには高度な知識が必要だが、このような経験
は生徒の知的好奇心を呼び覚まし、学習意欲を高める良い機会
となった。



令和六年 部活動

事業部 (4)

執行部・議長団・応援団・新聞部

文化部 (19)

文芸部・演劇部・映画制作部・物理部・化学部・生物研究部・数学研究部・写真部・コーラス部・吹奏楽部・美術部・書道部・ESS部・JRC部・華道部・茶道部・パソコン部・デイベート部・放送部

体育部 (16)

弓道部・剣道部・柔道部・水泳部・山岳部・陸上部・野球部・ソフトテニス部(男子)(女子)・テニス部(男子)(女子)・卓球部・バスケットボール部・バレーボール部(男子)(女子)・ラグビー部・サッカー部・ヨット部・バドミントン部

総合部 (1)

文体総合部

現在40のクラブの下で現役生は元気に活動しています。各クラブ活動については修猷館HP「部活動紹介」をご覧ください。

修猷館生の活躍

7月から8月にかけて、福岡県をはじめとする北部九州各県で全国高校総体(インターハイ)が開催され、山岳部・弓道部・陸上部・ヨット部が出場しました。特に、山岳部女子は昨年度の男子に引き続いたの入賞(4位)を果たしています。また、8月に岐阜県で行われた全国高校総合文化祭では、新聞部・コーラス部・書道部・文体総合部(囲碁)が出場し、運動部・文化部ともに全国の舞台での修猷生の活躍が光りました。

また、吹奏楽部が高文連福岡県大会で10年ぶりとなる九州大会推薦、ラグビー部の大内田葉月(3年)が佐賀県で行われた国民スポーツ大会(旧・国体)の女子ラグビー福岡県代表として優勝し、大会MVPを獲得しました。さらに、野球部が九州地区高等学校野球福岡大会において17年ぶりとなるベスト4進出を果たし、準決勝では300名を超す生徒が応援に駆けつけるなど、例年ない活躍や学校の盛り上がりも見られました。他どの部活も、学業との両立を図りながら日々鍛錬を重ね、「文に武に」活躍する姿を見せています。



同窓会の歩み

- 一・一 役員会・学年幹事会合同新年会（アークホテルロイヤル福岡天神 119名）
- 二七 宮崎修猷会（隠れ里の懐石料理わらしべ 12名
中神館長・上田幹事長）
- 二七）二九 アジア研修（台湾）
- 二・三 鹿児島修猷会（ソラリア西鉄ホテル鹿児島 20名
中神館長・上田幹事長）
- 六 菁莪発送
- 一七 大分修猷会（大分センチュリーホテル 14名
中神館長・津田会長・上田幹事長）
- 一九 修猷協会理事会
- 三・一 同窓会入会式（久保田相談役・上田幹事長・中本事務局長 総会幹事学年H7・H8 各3名）
- 二 第76回卒業式（389名 男子206名 女子183名 津田会長・上田幹事長・中本事務局長・大賀監事・田中監事）
- 四・九 入学式（440名 男子226名 女子214名
津田会長・上田幹事長・中本事務局長・大賀監事・田中監事）
- 五・九 令和5年度会計監査
- 九 修猷協会臨時理事会（創立240周年特別助成）
- 九 学年幹事会（令和5年度会計決算承認 108名）
- 二四 修猷館創立記念式典・記念講演（九州大学総長石橋達朗氏 S43卒）
- 二五 卒業生キャリアアセミナー
- 同窓会総会（ホテルニューオータニ博多 932名）

六・一 中京修猷会（大同特殊鋼健保会館 42名 井地副校長・上田幹事長）

二 OBゴルフ大会（福岡カンツリー倶楽部 和臼コース 141名）

六 アメリカ研修通知書交付式（上田幹事長）

一四 東京修猷会（東京プリンスホテル 鳳凰の間 441名 中神館長・津田会長・上田幹事長）

一八 修猷協会理事会・評議員会

二九 中国四国修猷会（オリエンタルホテル広島 37名
中神館長・津田会長・中本事務局長）

七・一〇）一七 生徒アメリカ研修（サンノゼ・ロサンゼルス 12名）

二四 佐賀修猷会（グランデはがくれ 28名 中神館長・上田幹事長）

九・七 大運動会

一一・一 アメリカ研修報告会（上田幹事長）

七 応援歌伝承会

一六 近畿修猷会（ホテルモンテレグラスミア大阪 182名 井地副校長・西高辻副会長）

一六 沖縄修猷会（穂 21名 中神館長・中本事務局長）

二三 熊本修猷会（アークホテル熊本城前 25名 中神館長・津田会長）

二三 長崎修猷会（サンプリエール 33名 大塚教頭・上田幹事長）

三〇 東北修猷会（伊達のいろり焼 蔵の庄総本店 24名 中神館長・上田幹事長）

一一・六 アジア研修通知書交付式（中本事務局長）

※毎月第2木曜日役員会（5月・8月・12月・1月を除く）

※名簿管理・菁莪編集・ホームページ運営・歴史伝統伝承・資料館運営 各委員会 適宜開催

役員会・学年幹事会報告

二月八日（役員会）

- (1) 学校から 大学入試共通テストについて
予餞会・文化祭について
部活動報告
- (2) 各種委員会から

- ・ 菁莪編集委員会 「菁莪」発行状況について
発送に関する変更点説明

- ・ 資料館運営委員会

- (3) 令和6年度同窓会総会の進捗状況について

- (4) 支部総会報告

- 近畿 11月11日（土）中神館長、津田会長、上田幹事長が参加
- 沖縄 11月18日（土）井地教頭、上田幹事長が参加
- 東北 11月25日（土）中神館長、上田幹事長が参加
- 熊本 11月25日（土）井地教頭が参加
- 長崎 12月9日（土）中神館長、上田幹事長が参加
- 宮崎 1月27日（土）中神館長、上田幹事長が参加
- 鹿児島 2月3日（土）中神館長、上田幹事長が参加
- (5) その他
 - ・ 役員会・学年幹事会合同新年会報告

三月十四日（役員会）

- (1) 学校から 文化祭について 文化祭運営委員長の告知
アジア研修 参加生徒の報告

- (2) 同窓会入会式について 3月1日（金）

- (3) 卒業式について 3月2日（土）津田会長他4名出席

- (4) 各種委員会から

- ・ 菁莪編集委員会 菁莪発送完了報告

- ・ 資料館運営委員会

- (5) 令和6年度同窓会総会の進捗状況について

- (6) 支部総会報告

- 大分 2月17日（土）中神館長、津田会長、上田幹事長が参加

- 審議事項

- (1) 2025年同窓会名簿について

四月十一日（役員会）

- (1) 学校から 管理職の紹介
文化祭について
入学式について

- 入学式について

- (2) 修猷館高校転退職職員への餞別について

- (3) 入学式について 4月9日（火）津田会長他4名出席

- (4) 各種委員会から

- ・ 歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会11月7日に開催

- (5) 修猷協合理事会について
創立240周年特別助成について

- (6) 令和6年度同窓会総会の進捗状況について

- 審議事項

- (1) 令和6年度学年幹事会について

五月九日（学年幹事会）

議事

- (1) 令和5年度事業報告及び収支決算書(案)
 - (2) 会計監査報告並びに決算承認の件
 - (3) 令和6年度事業計画(案)及び予算(案) 審議並びに承認の件
 - (4) 役員変更承認の件
- 協議事項

- (1) 令和7年(2025年)名簿発行について
- その他

- ・修猷協会より
- ・令和6年度同窓会総会について

六月十三日 (役員会)

- (1) 学校から 創立240周年記念式典について
文化部発表会について
アメリカ研修について

- (2) 学年幹事会報告
- (3) 創立240周年記念植樹・式典・講演会報告
- (4) 同窓会総会報告 幹事学年七猷会より開催の報告とお礼
- (5) 支部総会報告

中京 6月1日(土) 井地副校長、上田幹事長が参加

- (6) 各種委員会から
・資料館運営委員会
・HP運営委員会

- (7) アメリカ研修修通書交付式について

七月十一日 (役員会)

- (1) 学校から アメリカ研修について

部活動報告 全国大会出場
運動会案内

- (2) 支部総会報告
東京 6月14日(金) 中神館長、津田会長、上田幹事長が参加
中国四国 6月29日(土) 中神館長、津田会長、中本事務局長が参加

- (3) 修猷協会理事会・評議員会報告
240周年特別助成について

- (4) 各種委員会から

- ・資料館運営委員会 令和6年度活動予定
ホームページ運営委員会

HPの「資料館紹介ページ」をバージョンアップ
「事務局だより」も追加

九月十二日 (役員会)

- (1) 学校から アメリカ研修報告 参加生徒より報告

平成30年卒瀬戸勇次郎さんがパリパラリンピック柔道(弱視)で金メダル獲得
運動会について

部活動報告 全国大会出場

- (2) 支部総会報告
佐賀 7月24日(水) 中神館長、上田幹事長が参加

- (3) 総会幹事学年引き継ぎについて

平成7年卒七猷会から平成8年卒平八会へ
※平成9年卒九猷会 オブザーバー参加

- (4) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの寄稿依頼

・名簿管理委員会 名簿発行について

その他

・瀬戸勇次郎さん（平成30年卒）パリパラリンピック報告

・支部総会開催予定

十月十日（役員会）

○修猷資料館見学

(1) 学校から 瀬戸勇次郎さん金メダル報告会について

文化講演会について

「修猷フェスト」について

2年生研修旅行について

部活動報告 全国大会・国民スポーツ大会出場

(2) 各種委員会から

・資料館運営委員会

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの寄稿依頼

・歴史伝統伝承委員会 部活動の周年行事の情報提供依頼

・名簿管理委員会 名簿広告について

(3) 総会当番学年（平八会）から

審議事項

(1) 令和8年度同窓会総会・懇親会の日程について

開催案 令和8年5月29日（金）

福岡国際会議場（博多区石城町）

幹事学年・平成9年卒九猷会

その他

(1) 名簿内容の確認について

(2) 支部総会開催予定

(3) 令和7年役員会・学年幹事会合同新年会の開催予定

(4) 「瀬戸勇次郎さん金メダル獲得を祝う会」開催案内

十一月十四日（役員会）

(1) 学校から 2024年度県教育文化表彰（学校教育部門）

中神智文館長受賞

アメリカ研修報告会について

修猷フェスト・出前授業について

応援歌伝承会について

アジア研修通知書交付式について

(2) 各種委員会から

・資料館運営委員会 活動報告

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの原稿提出のお願い

・歴史伝統伝承委員会 11月7日（木）に応援歌伝承会開催

・名簿管理委員会 名簿発行について

(3) 令和7年度同窓会総会の進捗状況について

(4) その他

・「瀬戸勇次郎さん金メダル獲得を祝う会」開催報告

審議事項

(1) 常任幹事の交代について

平成15学年・田元有紀さん ↓ 河野理恵さん

その他

・役員会・学年幹事会合同新年会の開催について

日時：令和7年1月9日（木）19時開始

場所：アークホテルロイヤル福岡天神

令和5年度 同窓会会費入金状況

令和5.4.1～令和6.3.31

卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費	卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費
昭 15	93	0	0	0	0	61	394	0	0	0	0
16	121	0	0	0	0	62	394	0	0	0	0
17	142	0	0	0	0	63	424	0	0	0	0
18	159	0	0	0	0	平 1	370	0	0	0	0
19	126	0	0	0	0	2	407	0	0	0	0
20 (5)	131	0	0	0	0	3	425	0	0	0	0
20 (4)	124	0	0	0	0	4	441	0	0	0	0
21・22	156	0	0	0	0	5	396	0	0	0	0
23・24	241	0	0	0	0	6	436	0	0	0	0
25	194	0	0	0	0	7	449	0	0	0	0
26	208	0	0	0	0	8	484	0	0	0	0
27	268	0	0	2	4,000	9	438	0	0	0	0
28	269	0	0	0	0	10	429	0	0	0	0
29	248	1	20,000	1	2,000	11	432	0	0	0	0
30	253	0	0	0	0	12	394	0	0	0	0
31	243	0	0	2	4,000	13	389	0	0	0	0
32	263	1	20,000	4	8,000	14	396	0	0	0	0
33	279	0	0	2	5,000	15	397	0	0	0	0
34	264	0	0	1	2,000	16	402	0	0	0	0
35	261	0	0	3	6,000	17	398	0	0	0	0
36	275	0	0	2	4,000	18	397	0	0	0	0
37	249	0	0	8	16,000	19	390	0	0	0	0
38	238	1	20,000	2	4,000	20	390	0	0	0	0
39	201	1	20,000	9	18,000	21	390	0	0	0	0
40	272	0	0	5	10,000	22	390	0	0	0	0
41	332	2	40,000	9	18,000	23	397	0	0	0	0
42	309	1	20,000	4	8,000	24	393	0	0	0	0
43	333	0	0	2	4,000	25	435	0	0	0	0
44	297	1	20,000	5	10,000	26	402	0	0	0	0
45	310	0	0	6	12,000	27	399	0	0	0	0
46	271	1	20,000	1	2,000	28	433	0	0	0	0
47	290	1	20,000	1	2,000	29	433	0	0	0	0
48	249	1	20,000	2	4,000	30	398	0	0	0	0
49	286	2	40,000	4	8,000	31	427	0	0	0	0
50	290	1	20,000	3	6,000	令 2	436	0	0	0	0
51	312	2	40,000	0	0	3	392	0	0	0	0
52	247	1	20,000	1	2,000	4	433	0	0	0	0
53	222	0	0	1	2,000	5	434	0	0	0	0
54	241	1	20,000	1	2,000	合 計	26,732	24	480,000	89	179,000
55	243	0	0	1	2,000	卒 業 生 会 費 計					659,000
56	268	3	60,000	4	8,000	通 信					42,000
57	240	1	20,000	1	2,000	定 時					30,000
58	256	2	40,000	2	4,000	卒業生終身会費年会費合計					731,000
59	413	0	0	0	0	令 6 年 卒 業 生 終 身 会 費			389		7,780,000
60	381	0	0	0	0	總 合 計					8,511,000

第3章 学年幹事

第9条 学年幹事は全日制各年次3名以内（定時制・通信制は若干名）を選任し、本会に報告する。

第10条 学年幹事は学年幹事会を構成し、その付託事項を処理する。

第4章 会 議

第11条 総会

定期総会は原則として毎年5月30日（母校創立記念日）に会長が招集し、役員を選任・予算・決算・規約改正およびその他の会務報告を行う。

2. 臨時総会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

第12条 学年幹事会

学年幹事会は学年幹事をもって組織し、役員を選任・予算・決算・規約改正、その他会務執行に必要な重要事項を審議決定する。

2. 定期学年幹事会は原則として毎年5月の第2木曜日に会長が招集する。

3. 臨時学年幹事会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

4. 学年幹事会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第13条 役員会

役員会は役員をもって組織し、予算・決算・規約改正案の作成および会務執行に必要な事項を審議し処理する。

2. 会長は随時必要なときにこれを招集し、議長となる。

3. 役員会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第5章 組 織

第14条 委員会

本会は会務執行にあたり、必要な場合に委員会を設置することができる。

第15条 事務局

本会に事務局を置き、事務局長1名、事務局次長1名および事務職員若干名をおくものとする。

第16条 支部

本会は遠隔地の会員との連絡を密にするため、必要な地に支部を置くことができる。

2. 支部の結成は代表者の申し出により、役員会の承認を受ける。

3. 支部の運営は各支部の定めるところとする。

第6章 会計および庶務

第17条 本会の経費は会費および寄付金および運用収入をもって充てる。

第18条 本会の会費は終身会費20,000円、年会費2,000円および特別会費とする。

第19条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第20条 本会は一般財団法人修猷協会の運営管理に關しての権利は相応に保有するものとする。

第7章 補 則

第21条 本会会務の処理に必要な細則は別に定める。

第22条 本会則は昭和43年5月30日より施行する。

昭和49年5月30日一部改正。

昭和53年5月30日一部改正。

昭和55年5月30日一部改正。

昭和59年5月30日一部改正。

平成21年5月30日一部改正。

平成27年5月30日一部改正。

修猷館同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は修猷館同窓会と称する。

第2条 本会は事務局を福岡市早良区西新3-12-14：修猷館同窓会館内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 1) 会員名簿の発行
- 2) 同窓会誌「菁莪」の発行
- 3) 創立記念事業
- 4) その他必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

- 1) 通常会員
 - イ) 福岡県立中学修猷館卒業生
福岡県中学修猷館卒業生
 - ロ) 福岡県立高等学校修猷館卒業生
福岡県立修猷館高等学校卒業生
 - ハ) 上記の学校に在籍した者で入会を希望する者
 - ニ) 福岡県立修猷館高等学校定時制卒業生
 - ホ) 福岡県立修猷館高等学校通信制卒業生
- 2) 特別会員
上記学校の教職員および旧教職員
- 3) 準会員
福岡県立修猷館高等学校在校生

第2章 役 員

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長	1名	副 会 長	若干名	名 誉 会 長	1名
常 任 幹 事 長	1名	事 務 局 長	1名	監 事	2名
常 任 幹 事	全日制各年次	1名	(40名以内)		
定 時 制・通 信 制	若干名				
相 談 役	1名	顧 問	若干名		

第6条 本会役員を選任は次のとおりとする。

- 1) 会長・副会長および監事は通常会員中より役員会において選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 2) 名誉会長は母校館長とする。
- 3) 常任幹事は、原則として卒業後17～56年次および定時制・通信制会員より選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 4) 常任幹事長は常任幹事中より会長が委嘱する。
- 5) 上記以外の役員は通常会員中より会長が委嘱する。

第7条 役員は次の任にあたる。

- 1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその代理をする。
- 3) 常任幹事長は会長の意を受け、円滑な会務の運営にあたる。
- 4) 事務局長は金銭の収支、会費の徴収、議事録の作成その他本会事務一般にあたる。
- 5) 監事は会計事務を監査する。
- 6) 常任幹事は本会の会務を執行処理する。
- 7) 名誉会長、相談役および顧問は本会の諮問に応じる。

第8条 本会役員任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

修猷館同窓会 個人情報保護方針

修猷館同窓会（以下「当会」という）は、当会が取得し取扱う会員の個人情報の保護が重要な責務であることを認識し、以下のとおり個人情報保護方針を定め、これを遵守します。

1. 当会が取得する個人情報について
当会が取得する会員の個人情報は以下のとおりです。
氏名・性別・住所・電話番号・メールアドレス・勤務先または在学学校名・勤務先または在学学校の電話番号・卒業年・最終学歴
2. 個人情報の利用目的について
ご提供いただいた情報は機密扱いとし、会員の管理、会報等の送付および同窓会名簿の発行・送付を含む同窓会（支部を含む）の各種事業に役立てる目的のみに使用します。
3. 個人情報の取得方法について
当会における個人情報の取得は、以下の方法によることとします。
①当会事務局から会員本人または常任幹事もしくは学年幹事へ提供依頼する方法
②会員本人の家族または他の会員から間接的に事務局へご連絡いただく方法
③会員本人から直接事務局へご連絡いただく方法
4. 個人情報の管理について
当会では、個人情報を正確かつ最新の状態に保ち、不正アクセス・紛失・破壊・改ざん・漏洩または再提供（「6. 個人情報の第三者への情報提供について」に記載する場合を除きます）などのないよう、適切な管理を実施いたします。また、個人情報の処理を外部に委託する場合は、個人情報を適正に取り扱っている委託先を選定し、契約等を通じて、必要かつ適切な監督を行います。
5. 個人情報の開示・訂正・利用停止について
会員本人が自己の個人情報について、開示、訂正及び利用停止を求める権利を有していることを確認し、これらの要求がある場合には、会員本人からの請求であることを確認の上、速やかに対応します。
6. 個人情報の第三者への情報提供について
当会は、会員本人の同意を得た場合以外は、他の会員、同窓会支部以外の第三者に提供を行いません。ただし、当会が事業を行うために業務（同窓会名簿の作成、「菁莪」の発行等を含むがこれに限らない）を委託する外部業者に対し提供する場合、警察や裁判所等の公的機関から法律に基づく手続において照会を受けた場合、同窓会の権利や財産等を保護するため必要と認められる場合および人命・身体・財産等に対する緊急の必要性がある場合は除きます。
7. 個人情報管理責任者の配置について
個人情報を取り扱う責任者を置き、適切な管理を行います。
管理責任者は、事務局長とします。
8. お問い合わせ
当会の個人情報保護方針に関する、ご意見、ご質問、苦情の申出その他個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、以下の窓口にご連絡ください。
修猷館同窓会 事務局
住所：〒814-0002 福岡県福岡市早良区西新3-12-14
TEL：092-821-0663 FAX：092-821-0672
Email：jimukyoku@shuyukan-dosokai.com
9. 法令等の遵守・個人情報保護方針の改定
当会では、法令等に従った個人情報の管理、利用を行います。当会では、法令等の変更に合わせて、個人情報の保護をより確かなものとするため、またはその他の理由により、個人情報保護方針を改定することがありますので、定期的に個人情報保護方針のご確認をしていただきますようお願いいたします。
10. 制定日
制定日：令和5年10月12日

修猷館同窓会

お知らせ

『修猷館同窓会名簿』発行のご案内

名簿委員長

松 本 一 範

常任幹事（昭和62年卒）

令和七年は、五年毎に作成している『修猷館同窓会名簿』の発行年です。現在、五月の発行に向けて、名簿委員会十名で準備を進めております。『菁莪』の誌面をお借りしまして、同窓会名簿のご案内をさせていただきます。

●同窓会名簿発行のご案内

今年五月に発行する同窓会名簿は、名簿管理システムを内製化してから三回目の名簿発行となります。これまでと同様、印刷業者との打ち合わせなどをすべて自分達で行う必要があり、負担は大きいのですが、同窓会事務局のお力もお借りして、滞りなく準備を進めています。

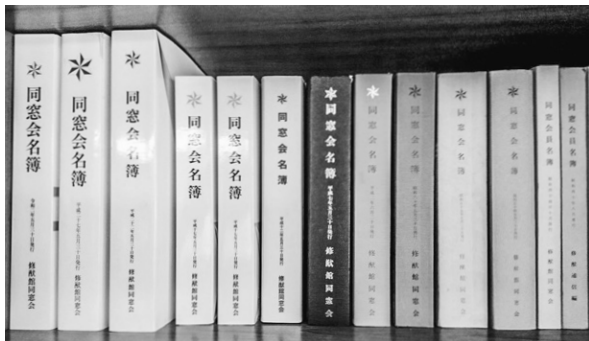
今回の『菁莪』に、名簿購入の予約申し込み用紙が同封されていますので、ご購入を検討していただければと思います。また、名簿広告のご協賛も二月末まで受け付けています。詳細は同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

●会員情報の掲載方法を一部変更します

同窓会名簿は既に五センチ近い厚さがあり、製本できる物理的限界に近づいています。使いやすさやコスト面からでもできる限り薄くすることを目的に、今回名簿から学年ページの会員情報の掲載方法を一部変更します。「現住所が未登録の会員」については、本人希望による未登録であっても現住所不明者との区別をせずに、それぞれの学年ページ末尾に「名前のみ掲載（五十音順）」となります。

これまで通りの掲載を希望する会員は、この機会に現住所登録をお願いします。同窓会事務局に二月末までにご連絡下さい。

『同窓会名簿』が、館友の皆さまに活用され、それぞれの同窓会活動を活発にすることができれば、名簿委員会として、これ以上の喜びはありません。よろしくお願ひします。



☆ 同窓会事務局だより ☆

【会員登録内容の確認について】

登録内容に変更がありましたら、下記の要領で同窓会事務局にご連絡ください。

【登録項目】

- ①氏名(旧氏名) ②最終学歴 ③自宅住所・電話番号 ④勤務先名・電話番号
※登録できる住所は、1会員につき1箇所としています。国外への『菁我』の郵送はいたしかねますので、郵送希望の方は国内の連絡先をご登録ください。
※登録内容の確認は、同窓会名簿をご活用ください。

【変更のご連絡について】

変更のご連絡は、メール・FAX・郵送にてお願いします(卒業年次を必ずご記入ください)。ご家族の方にはお願いですが、会員ご本人様が亡くなられている場合は事務局までご連絡ください。

【会費納入のお願い】

終身会費の納入がお済みでない会員に、郵便局用「払込取扱票」を同封しております。

終身会費または年会費いずれかの納入をお願いいたします。

【同窓会費】

- ①終身会費 20,000円(1回限り) ②年会費 2,000円(毎年納入)

【納入方法】 ①②のいずれかの方法で納入ください。

- ①銀行振込(振込手数料のご負担をお願いします)
・福岡銀行 西新町支店 普通預金1094481
・西日本シティ銀行 西新町支店 普通預金1544288
・ゆうちょ銀行 一七九店(イチナナキューウ店) 当座預金0008320
口座名義(共通):修猷館同窓会(シュウユウカンドウソウカイ)

※振込の際は、ご依頼人の記載を「卒業年次+氏名」としてください。

(例)「S61シュウユウケンジ」「H7ニシノミソラ」

- ②郵便局での払込み(同封「払込取扱票」利用の場合、手数料同窓会負担)
「払込取扱票」に必要事項を記入して払込みをお願いします。

【修猷館への寄附のお願い】

修猷館同窓会は、一般財団法人修猷協会を通じて長年にわたり修猷生の海外研修旅行への助成や学校活動・教育環境整備に関する助成を行ってまいりました。(次頁「修猷協会活動報告」ご参照)

これまでは修猷協会独自の事業収益から助成してまいりましたが、必要な費用は増え続けています。「世の為人の為」に代表される修猷館教育を今後も展開するためには、皆様からのご支援ご協力が必要です。助成事業の取り組みにご賛同をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆**寄附の方法** 下記銀行口座に振込みをお願いします。振込手数料はご負担ください。

- ・福岡銀行 西新町支店 普通預金 74436
口座名義:一般財団法人修猷協会 ザイ)シュウユウキョウカイ

◆**税制上の優遇措置**

一般財団法人修猷協会への寄附金は、税額控除が認められる指定寄附金となりません。

※ご寄附いただく場合は、寄附者の確認などのため事前に下記までご連絡ください。

☆ 修猷館同窓会事務局 ☆ (受付時間:月~金 10:00~16:00)

〒814-0002 福岡市早良区西新3-12-14

TEL:092-821-0663 FAX:092-821-0672

メールアドレス:jimukyoku@shuyukan-dosokai.com

◎ホームページURL: <https://shuyukan-dosokai.com/> 詳細はこちらから⇒



令和5年度 一般財団法人修猷協会活動報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

【修猷協会とは？】

修猷館高校の教育の充実向上を助成し、将来社会に貢献できる人材を育成・輩出することを目的に設立され、同窓会、学校、PTAが協力して運営している法人です。具体的には生徒の海外研修旅行への助成や生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成を行っています。

1. 令和5年度事業報告（公益目的支出実施報告）

- (1) 海外研修旅行への助成 助成額：500万円（アメリカ研修450万円、台湾研修50万円）
- (2) 生徒の学校活動・教育環境整備に関する助成 助成額計：500万円
 - ①文化祭活動 30万円
 - ②運動会活動 100万円
 - ③部活動遠征費 150万円
 - ④施設設備・備品等の整備 220万円

2. 資産・収支の概要

令和6年3月末の資産合計は約7億6千万円であり、そのうち同窓会館の土地建物、学校グラウンド人工芝などの資産を差し引いた約3億円及び同窓会館1階部分のローンへの賃貸や駐車場による収入が助成事業の原資となります。

令和5年度の収支は、同窓会館1階部分のローンへの賃貸や駐車場による収入など合計で2,350万円の収入、上記助成額1,000万円を含んだキャッシュベースの費用は2,140万円でした。

3. 役員（理事・監事）及び評議員の状況

- (1) 理事10名（同窓会6名、学校2名、PTA2名）
 - ・同窓会：津田純嗣（S44）大賀啓史（S46）田中雅美（S50）上田英友（S55）
中本純徳（S61）大野慶樹（S63）
 - ・学校：館長、事務長
 - ・PTA：相談役、会長
- (2) 監事2名（同窓会2名）菊池武彦（S49）三戸宗一郎（H2）
- (3) 評議員12名（同窓会6名、学校2名、PTA4名）
 - ・同窓会：久保田勇夫（S36）西高辻信良（S47）谷川浩道（S47）佐伯拓史（S56）
福泉忠興（S59）石橋顕（H4）
 - ・学校：副校長、教頭
 - ・PTA：副会長3名、他1名

4. 今後の課題とお願い

物価高騰による施設設備・備品の整備費用の増加や海外研修旅行費用の高騰に伴い参加生徒の負担が年々増えていることを考えれば、学校への助成増額が今後の検討課題です。また将来的な周年事業への特別助成、同窓会館の大規模修繕工事、グラウンド人工芝の張替えなど、必要な費用は増え続けていきます。修猷協会の趣旨と助成事業の取り組みにご理解とご賛同をいただき、寄付金等を含めた皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。
※前頁「同窓会事務局だより」の【修猷館への寄附のお願い】をご覧ください。

修猷館同窓会役員名簿 (自二〇二三年五月 至二〇二五年五月)

顧問	波多野聖雄 (S 26卒)	常任幹事	大野 慶樹 (S 63卒)
相談役	出光 芳秀 (S 31卒)	幹事	今泉 忠 (H 1卒)
名誉会長	相談 久保田勇夫 (S 36卒)	三戸宗一郎 (H 2卒)	
副会長	中神 智文 (館長) (S 44卒)	花田由理子 (H 3卒)	
会長	津田 純嗣 (S 44卒)	石橋 顕 (H 4卒)	
	長等 健次 (S 45卒)	能見 信二 (H 5卒)	
	西高辻信良 (S 47卒)	党 智 (H 6卒)	
	谷川 浩道 (S 47卒)	池下 智 (H 7卒)	
常任幹事	上田 英友 (S 55卒)	平田 将彦 (H 8卒)	
事務局	中本 純徳 (S 61卒)	峰 雅紀 (H 9卒)	
常任幹事	麻生 俊郎 (S 44卒)	村上 弘 (H 10卒)	
	森下七百枝 (S 45卒)	梅北 拓郎 (H 11卒)	
	鞍垣 吉政 (S 47卒)	松尾 光泰 (H 12卒)	
	黒木 篤 (S 48卒)	赤司 雅之 (H 13卒)	
	小柳 有美 (S 49卒)	中村 道彦 (H 14卒)	
	半田 敦士 (S 51卒)	河野 理恵 (H 15卒)	
	作間 功 (S 52卒)	川喜 耕大 (H 16卒)	
	堤 勝也 (S 53卒)	青木 仁敬 (H 17卒)	
	菊池 政道 (S 54卒)	稲留 慶司 (H 18卒)	
	佐伯 拓史 (S 56卒)	矢野 恵奈 (H 19卒)	
	田中 徹 (S 57卒)	進藤 靖子 (通58卒)	
	弥吉 祐子 (S 58卒)	香野 信儀 (定34卒)	
	福泉 忠興 (S 59卒)	大賀 啓史 (S 46卒)	
	中村 成克 (S 60卒)	田中 雅美 (S 50卒)	
	松本 一範 (S 62卒)		

各支部会長名簿

東京修猷会会長 等	健次 (S 45卒)	大分修猷会会長	井上 正文 (S 44卒)
中京修猷会会長	嶋尾 正 (S 43卒)	熊本修猷会会長	井上 昌治 (S 51卒)
近畿修猷会	遠座 俊明 (S 52卒)	宮崎修猷会会長	南嶋 洋一 (S 29卒)
代表世話人	津田 純嗣 (S 44卒)	鹿児島修猷会会長	福田 健夫 (S 28卒)
北九州修猷会会長	駒井 英基 (S 49卒)	沖縄修猷会会長	國吉 妙子 (S 44卒)
佐賀修猷会会長	中牟田真一 (S 41卒)	東北修猷会会長	工藤 砂織 (S 56卒)
長崎修猷会会長		中国四国修猷会会長	河野 浩 (S 46卒)

あとがき

2024年(令和6年)5月の同窓会総会懇親会は何の制限もなく盛大に開催されました。1年延期して無観客で行われた東京2020オリンピック・パリリンピックから3年が経過して開催されたパリオリンピック・パリリンピックは会場全体で盛り上がりつつある様子がテレビの画面からも伝わってくるほどでした。この歓喜の中にも多くの館友がいたことかと存じます。特にパリリンピック柔道で金メダルを獲得した瀬戸勇次郎さんのご活躍は同窓生としても誇らしく嬉しい限りです。瀬戸さんおめでとうございます!

今回も普我発行にあたり、各方面、各世代の同窓生から素晴らしい原稿を寄せていただきました。誠にありがとうございます。また、各支部修猷会の報告に加えて、学年ごとの卒業周年同窓会や節目同窓会の楽しい報告もたくさん寄せていただきました。そして、今回の普我には今年開催予定の部活動周年行事のお知らせも掲載しています。

コロナ禍を経て私たちは顔を合わせ会うことの大切さを知ると同時に、その場になくても繋がる方法も学んだように思います。同窓生の様々な思いや同窓会の活動、修猷館の現在の様子を掲載して毎年発行される同窓会誌普我。この普我心を少しくも豊かにすることができれば幸いです。今回の普我はいかがだったでしょうか?会員の皆様のご意見を、そして次号への投稿をお待ちしております。

末筆となりましたが、2025普我の編集にご協力いただきました皆様へ編集委員一同厚くお礼申し上げます。

やよし記



みんなにこ25修猷力の大!!

令和7年度修猷館同窓会総会の幹事学年を務めます
平成8年卒・平八会です。今年のキャッチフレーズ
「みんなにこ25修猷力∞大!!」には、2025年の
25（にこ）を取り入れました。ご来場の皆さまが
「にこにこ」と笑顔になっていただける会とする
ために準備を行っております。

一人でも多くの館友の皆さまに集まっていただき、
「修猷パワー」を感じていただけるような素敵な会
となるよう努めてまいります。皆さまのご来場を
心よりお待ちしております。

令和7年度修猷館同窓会総会実行委員長 高平 良

前	売	8,000円
当	日	9,000円
令和7年卒		2,000円

チケットお問い合わせ先

平成8年卒 平八会

TEL 070-8595-0379

hei8kai2025soukai.info@gmail.com

ホテルオークラ福岡へ地下鉄をご利用の際は、
中洲川端駅で下車し川端口改札から出て6番出口方面へ
お進みください。

OBゴルフ大会

2025年6月1日(日)

福岡カンツリー倶楽部 和白コース

日時.. 2025年5月24日(土) / 18時
会場.. ホテルオークラ福岡

令和
7
年度

修猷館同窓会総会

修猷館同窓会誌

菁 莪

発行者 修猷館同窓会

福岡市早良区西新三丁目十二―十四
電話(〇九二) 八二一―〇六六三
FAX(〇九二) 八二一―〇六七二

代表者 津田 純嗣

発行日 令和七年一月三十一日

編集者 菁莪編集委員会

佐伯 拓史・森下七百枝
鞍垣 吉政・小柳 有美
堤 勝也・弥吉 祐子
石橋 顕・河野 理恵
矢野 恵奈

印刷 祥文社印刷株式会社